

平成 3 0 年度
年間授業計画
～シラバス（Syllabus）～



新潟県立十日町高等学校
松之山分校

目 次

シラバスについて（教務部）

教育課程

国 語	国語表現（３年選択） 国語総合 現代文Ｂ（２年） 教養国語（２年選択） 現代文Ｂ（３年） 古典Ｂ（２年） 古典Ｂ（３年） 探究国語（３年選択）
地理歴史	世界史Ｂ（２年） 世界史総合（３年選択） 日本史Ｂ
公 民	倫 理 政治・経済（１年） 政治・経済総合（３年選択）
数 学	数 学 Ｉ 数 学 ＩＩ 探求数学（３年選択） 数 学 Ａ 数 学 Ｂ（２年選択） 教養数学（３年選択）
理 科	物理基礎 物 理（２年選択） 物 理（３年選択） 化学基礎 化 学（３年選択） 生物基礎 生 物（２年選択） 生 物（３年選択） 探求理科（３年選択）
保健体育	体 育（１年） 体 育（２年） 体 育（３年） 生涯スポーツ（３年選択） 保 健（１年） 保 健（２年）
芸 術	美 術 Ｉ 書 道 Ｉ
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ 英語表現Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ（２年） コミュニケーション英語Ⅱ（３年） 教養英語（３年選択） 英語表現Ⅱ（３年選択） 探究英語Ａ（２年選択） 探求英語Ｂ（３年選択）
家 庭	家庭基礎 服飾文化（３年選択） フードデザイン（２年選択）
情 報	社会と情報

年間授業計画(シラバス)の活用について

新潟県立十日町高等学校
松之山分校 教務部

1 シラバスの役割

「シラバス」= syllabus、英和辞典には「授業・講義などの概要、授業〔講義〕予定表」「アメリカの大学では最初の授業で各科目の担当者によって配られることが多く、何月何日にはどのような内容を授業で扱うか、試験や発表はいつかなどが細かく書かれているので、学生はこれに従って予習や準備をする。」とあります。現在では日本でもほとんどの大学で、また高等学校でも多くの学校が「シラバス」を作成し授業をより有効に行えるよう工夫が進められてきています。

この「シラバス」には、松之山分校で、具体的にどのような学習を行っていくのかが示されています。いうなれば、内容のついた学習カレンダーです。生徒はもちろんのこと、保護者の皆様にも、今、松之山分校で生徒諸君がどのような授業を受けているか、次にどのような段階や内容に進んでいくのか、ご理解頂けるようになっていきます。

教育活動にはなによりも「見通し」が大切です。学習は系統的・計画的に行われて初めて成果が上がるものです高等学校で「学ぶ」ためには筋道を立てて勉強する態度が必要です。「筋道を立てる」とは、何が目的でこのような勉強をしているのか、どこに自分の抱えている問題点があるか、を常に考えるということです。

各教科・科目の「年間授業計画」をもとに、各自で自分の学習計画を作りましょう。希望進路を実現するためには、学習の積み重ねが必要です。家庭学習を充実し、自主的・自発的な学習態度を養ってほしいところです。どうか、しっかりとした勉強習慣を身につけて、夢の実現にむけて力強く歩みだしてください。

2 学習のヒント

① 「わかる」ということ

どんなに勉強が嫌いな人でも、わからなかったことがわかったり、解けなかった問題が解けた喜びは大きいものです。その嬉しさから勉強をしたら人も多いです。「おれは勉強は嫌いだ」といっている人も「わからなくてもいい」と思っている人はいません。先生方も何とかわからせようと、工夫し努力しているのです。「わかった！！！」という喜びを実感できるよう、頑張ってください。

② 暗記と理解

どんな勉強も初めは教えられたことをすべて覚えることからスタートします。そのうちに知識がたまり、それを基に推理し、より高度な問題も理解する力がついてきます。高校生になっても、文句なしに覚えなければならないことはあります。それは必ず覚えて下さい。その時、紙に書いたり、口に出したり、頭の中で絵を描くようにイメージしながら覚えると効果的だといわれています。

③ 授業を大切にしよう。

学校生活の中ではほとんどが授業時間です。(1年間で約1000時間)
その授業を有効に活用できるかどうかで大きな差がでます。言い換えれば、一番簡単で有効な勉強方法は「授業を大切にする」ということです。当たり前ですが授業を大切にしていればテスト前であわてることもないしクラブも身を入れてやれます。

④ 集中しよう、そして積極的に参加しよう

授業時間を有効に活用することが一番簡単で有効な方法ですが、ただ座って聞いて書くだけでは不十分です。集中して聞けたらどんなに効果が上がることでしょう。そのために机には勉強道具以外は置かないということのも大事です。又、先生に質問されたとき「わかりません」という人がいますが、せっかくのチャンスです。間違ってもいいから答えましょう。授業中は大いに間違ってもよいのです。大切なことはどこが間違いで、どうすれば正しいかを理解することです。

⑤ 先生を大いに活用しよう

先生方は職業柄からか「教えよう」「教えたい」という気持ちが強い人ばかりです。生徒が「教えて下さい」と行けば、嬉しくなってしまう人ばかりです。ただテスト前になって「どこがわからないのか？」と聞かれて「全部です」とか「出るところだけ教えて下さい」では怒られます。「このプリントの・・・です」とか「～の問題について」とか、具体的に持ってきて下さい。

⑥ 教えることは学ぶこと・・・友達との勉強

お互いに教え合う中で。意外な考え方・解き方があるのがわかります。また、相手を理解させるには相手によって教え方を変えたり、いろいろ工夫しなければなりません。いい意味のライバルや仲間がいるから続けられると思います。

⑦ 生活のリズムを作ろう。

生活の仕方と成績は関係ないと思っている人が多いのではないのでしょうか。けど、これが大いに関係するのです。生活のリズム・・・起床や就寝の時間、3度の食事、排泄の習慣など・・・これは社会人になっても必要です。もちろんリズムにのっていることは健康であると同時に、自分の体をコントロールできているということです。夜更かししてぎりぎりまで寝ていて、朝食も食べずに授業を受ける・・・これでは午前中の授業効果は期待できません。勉強も生活のリズムに組み込んで習慣化すると、ぐっと楽にスムーズにやれます。

⑧ 予習と復習

小中学校時代の家庭での勉強は、宿題も含めて、復習中心でした。今日習ったことを忘れないうちに正確にしっかりと脳に覚えこませるためでした。高校に入って復習も大事ですが、それにもまして予習が大切です。5分でもいいですから明日やるところに目を通して下さい。授業に対する姿勢が違ってきます。先生の言われる意味がわかってきます。

⑨ 休日の利用

完全学校五日制となり、祝日や長期休業を入れると相当の日数になります。この時期は時間に余裕がある反面、制限が少ないのでどうしても生活のリズムが崩れがちで、何もしないうちに休みが終わってしまうことが多いです。休日は部活動や友人との語らい、家の手伝いなど勉強以外の大切なものもあります。しかし、学校へ行っているときに比べて自由になる時間ははるかに多いのですから上手に計画を立てて、積極的に活用して下さい。

⑩ 本を読もう

自分が興味・関心を持ったことをより深く知るためには、読書は欠かせません。何を呼んだらいいのかわからない人、ジャンルにとらわれずに、興味がわいた本を手にとってみて下さい。何冊も読んでいく中で、人生の指針となるべき一冊の本が見つかることでしょう。また、「読む力」をつけるためにも、時間をみつけて読書の習慣をつけましょう。その際には図書館を多いに活用して下さい。

3 シラバス利用上の注意点

授業計画には学期毎にどの単元をどのような着眼点をもって学習するかが記されています。次はどの単元を学習するかも分かりますので、予習に生かしてください。副教材・参考書のが上げられていますから、自分で学習する場合の参考にしてください。各講座の評価の視点、考查(小テスト)、課題についてはよく読んでください。とても大切なことです。

なお、シラバスは年度初めの計画ですので、授業計画や時間数は進度や選択者の進路希望等により変更になる場合があります。変更の場合は授業等で連絡しますが、承知しておいてください。

教 育 課 程 (平成27年度入学生～)

教科	科 目	標 準 単位数	1 年			2 年			3 年					計
			共通	A		共通	B	C	共通	D	E	F	G	
国 語	国 語 総 合	4	4											4
	国 語 表 現	3								3				0～3
	現 代 文 B	4				2			3					5
	古 典 B	4				3			2					5
	探 究 国 語												3	0～3
	教 養 国 語							2						0～2
地理 歴史	世 界 史 B	4				4								4
	日 本 史 B	4							4					4
	世 界 史 総 合										2			0～2
公 民	倫 理	2	2											2
	政 治 ・ 経 済	2	2											2
	政治・経済総合										2			0～2
数 学	数 学 I	3	3											3
	数 学 II	4				4								4
	数 学 A	2	2											2
	数 学 B	2					3							0～3
	探 究 数 学										6			0～6
	教 養 数 学										3			0～3
理 科	物 理 基 礎	2	2											2
	物 理	4						2		3				0～5
	化 学 基 礎	2				3								3
	化 学	4										4		0～4
	生 物 基 礎	2	2											2
	生 物	4						2		3				0～5
	探 究 理 科												3	0～3
保健 体育	体 育	7～8	3			3			3					9
	保 健	2	1			1								2
	生涯スポーツ												3	0～3
芸 術	美 術 I	2		2										0～2
	書 道 I	2		2										0～2
英 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3											3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4				3			2					5
	英 語 表 現 I	2	2											2
	英 語 表 現 II	4										4		0～4
	探 究 英 語 A						3							0～3
	探 究 英 語 B										2			0～2
	教 養 英 語										3			0～3
情 報	社 会 と 情 報	2				2								2
家 庭	家 庭 基 礎	2	2											2
	服 飾 文 化	2～4										4		0～4
	フードデザイン	2～4					3							0～3
			2 8	2		2 5	3	2	1 4	3	6	4	3	
教科時数合計			3 0			3 0			3 0					9 0
総合的な学習の時間			1			1			1					3
ホームルーム活動			1			1			1					3
合 計			3 2			3 2			3 2					9 6

教科：国語

科目：国語表現

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 選択科目（D 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：国語表現 改訂版（大修館書店）			
副教材等：なし			

1 学習目標

国語で適切に表現できる能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	書いて伝える	15	整った文を書く	◆		◆		
			わかりやすい文を書く	◆		◆		
			文のつなぎ方	◆		◆		
			絵や写真を見て書く	◆		◆		
1 学期 期末	声とコミュニケーション 自己PRと面接	21	言葉のストレッチ体操	◆	◆		◆	◆
			リーダーズシアターを開こう		◆		◆	◆
			自分を見つめて		◆	◆		
			効果的な自己PR	◆	◆		◆	
			将来の自分を考えよう	◆		◆		◆
			志望動機をまとめよう		◆	◆		
			面接にチャレンジ	◆	◆			
			履歴書の書き方			◆		◆
2 学期 中間	小論文・レポート入門	24	敬語のまとめ				◆	◆
			小論文とは何か		◆			◆
			反論を想定して書く	◆		◆		◆
			資料を読み取って書く			◆	◆	◆
			言葉で遊ぶ		◆	◆		
			働く人にインタビュー		◆			◆
			レポートを書く			◆		◆
			発想を広げて書く			◆		◆
2 学期 期末	メディアを駆使する	18	詩歌を楽しむ	◆		◆	◆	◆
			通信文を書き分ける	◆		◆		
			電話を使いこなす	◆	◆			◆
			ネット社会とコミュニケーション	◆	◆			◆
			エッセイを書こう	◆		◆		
			メディアと情報				◆	◆
			グラフを読む				◆	◆
3 学期	会話・議論・発表	20	相手や場面に応じた会話	◆	◆			◆
			議論して結論を出す	◆	◆	◆		
			プレゼンテーションの工夫		◆		◆	◆
			迷惑行為にどう対処するか		◆			◆
			開廷！ 模擬裁判	◆	◆			◆
			表現を楽しむ					
	表現を楽しむ	7	読み聞かせ	◆			◆	◆
			絵本をつくろう	◆		◆		◆

計 105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「考査・課題・レポート」を中心に「平常点」を加味し、総合的に評価します。

5 履修上の注意

「自分自身」を表現する科目です。そのための幅広いものの見方や記述する方法を学びます。

教科：国語

科目：国語総合

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	4 単位（140 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：精選国語総合【改訂版】（三省堂）			
副教材等：常用国語便覧（浜島書店）、常用漢字クリア（尚文出版）、国語辞典、古語辞典			

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	現代文編 評論一	5	「水の東西」山崎正和	◆			◆	◆
		5	「言語は色眼鏡である」野元菊雄	◆		◆		◆
	古文編 古文入門	10	「児のそら寝」「検非違使忠明」 ・歴史的仮名遣い ・品詞の分類、用言の活用	◆			◆	◆
1 学期	現代文編 小説一	14	「羅生門」芥川龍之介	◆			◆	◆
	漢文編 漢文入門	10	漢文の世界へ 漢文の構造と訓読の仕方	◆			◆	◆
	古文編 物語	4	『伊勢物語』係り結びの法則/「ば」の用法	◆			◆	◆
2 学期 中間	現代文編 詩	8	「サーカス」他	◆	◆			◆
	小説二	8	「清兵衛と瓢箪」志賀直哉	◆			◆	◆
	古文編 日記	6	『土佐日記』助動詞	◆		◆		◆
2 学期 期末	漢文編 漢詩	10	「春曉」他	◆			◆	◆
	現代文編 評論二	6	「コインは円形か」佐藤信夫	◆			◆	◆
	随想一	6	『待つ』ということ 鷲尾清一	◆			◆	◆
3 学期	古文編 随筆	8	『徒然草』助詞	◆	◆			◆
	軍記		『平家物語』敬語	◆	◆			◆
	漢文編 史話	4	「鶏口牛後」他	◆			◆	◆
3 学期	現代文編 評論三	4	「なぜ私たちは労働するのか」内田樹	◆			◆	◆
	短歌・俳句	7	「その子二十」短歌十六首…与謝野晶子他	◆	◆			◆
		7	「いくたびも」俳句十六句…正岡子規他	◆			◆	◆
	古文編 和歌	11	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	◆			◆	◆
	漢文編 思想	7	論語・孟子	◆			◆	◆

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」を中心に、授業時間中に行う漢字の「小テスト」、課題の提出、ノート提出、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。漢字小テスト4回分を各定期考査の範囲に含めて出題します。

5 履修上の注意

週の最初の国語総合の時間に、常用漢字クリアより範囲を定め、漢字の小テストを行います。
必ず全ての小テストに合格できるよう、毎日積み重ね学習しましょう。

教科：国語 科目：現代文B（2年）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
2 学年	2 単位（70 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：精選現代文B新訂版（大修館書店）			
副教材等：常用漢字クリア（尚文出版）、常用国語便覧（浜島書店）、国語辞典			

1 学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1学期 中間	随想	4	「可能無限」茂木健一郎 ・文章を読みとり、人間の幸福について考える。	◆		◆		
	評論	6	「家族化するペット」山田昌弘 ・文章の構成、段落の関係を理解し、筆者の主張をとらえ、「ペットの家族化」を考える。	◆	◆			
	(漢字小テスト)		常用漢字クリア（第41回～第44回）					◆
1学期 期末	小説	10	「山月記」中島敦 ・漢文調の文体を味わい、登場人物の心理から自己について考える。・感想文	◆			◆	◆
	詩歌	4	「永訣の朝」宮沢賢治 他 ・作者の研究・詩歌の技法、表現の特色に注意して、詩歌を味わう。	◆		◆		◆
	(漢字小テスト)		常用漢字クリア（第45回～第48回）					◆
2学期 中間	評論	8	「分かち合う社会」山極寿一 ・文章の構成、段落の構成を理解し、筆者の主張を読みとり、社会について考える。	◆	◆			◆
		8	「敬語への自覚、他社への自覚」橋本治 ・文章の構成、段落の構成を理解し、筆者の主張を読みとり、言語の特性について考える。	◆			◆	◆
	(漢字小テスト)		常用漢字クリア（第49回～第52回）					◆
2学期 期末	小説	12	「こころ」夏目漱石 ・登場人物の心理の動きを読みとる・感想文	◆	◆			◆
	(漢字小テスト)		常用漢字クリア（第53回～送り仮名の付け方Ⅱ）					◆
3学期	評論	7	「『である』ことと『する』こと」丸山真男 ・文章の構成、段落の関係を理解し、筆者の主張を読みとり、現代社会について考える。	◆		◆		◆
		7	「科学の現在を問う」村上陽一郎 ・文章の構成、段落の関係を理解し、筆者の主張を読みとり、科学技術について考える。	◆	◆			◆
	さまざまな文章	4	「『お』と『ご』の使い分けについて」北原保雄 ・言語の「ゆれ」について考える。	◆			◆	
	(漢字小テスト)		常用漢字クリア（部首～類義語）					◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」を中心に、授業時間中に行う漢字小テスト、課題の提出、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。漢字小テスト4回分を各定期考査の範囲に含めて出題します。

5 履修上の注意

国語総合に引き続き、週の初めの現代文の時間に常用漢字クリアより範囲を定め、漢字の小テストを行います。
国語総合の現代文分野を発展させた形で授業を行います。

教科：国語

科目：教養国語

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
2 学年	2 単位（70 時間）	選択科目（C 群）	特になし
準教科書：精選国語総合（三省堂）、精選現代文B新訂版（大修館書店）			
副教材等：プレゼミ総合国語（浜島書店）常用国語便覧（浜島書店）、国語辞典、漢字辞典			
担当者：国語科教員			

1 学習目標

- ・様々な文章を通して基本的な漢字の読み書きの能力を高め、活用する態度を身に付ける。
- ・文章を読むことによって日常的な教養を深める。
- ・言葉の意味を的確に捉え、言葉に関する知識を高める。
- ・様々な文章を通して読むための知識を高める。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期	国語総合 現代文B	随想 詩	4 「青が消える」村上春樹	◆			◆	◆
			4 「永訣の朝」宮沢賢治	◆		◆		◆
			2 プレゼミ実用国語基本編第1、2回				◆	◆
1 学期	国語総合 現代文B	漢文	7 「史話」	◆		◆		◆
			5 「システムとしてのセルフサービス」長谷川一	◆			◆	◆
			2 プレゼミ実用国語基本編第3、4回				◆	◆
2 学期	現代文B 短歌・俳句 国語総合 紀行	6 6 4	「短歌 十三首」	◆			◆	◆
			「奥の細道」松尾芭蕉	◆	◆			◆
			プレゼミ実用国語基本編第7、8回 必修編第1、2回				◆	◆
2 学期 期末	現代文B 国語総合	評論 日記	5 「ミロのヴィーナス」清岡卓行	◆	◆			◆
			5 「土佐日記」紀貫之	◆		◆		◆
			2 プレゼミ実用国語必修編第3、4回				◆	◆
3 学期	精選現代文 小説二 評論四	8 5 5	「檸檬」梶井基次郎	◆			◆	◆
			「世界は、いま」青木保	◆		◆	◆	◆
			プレゼミ実用国語必修編第5、6回				◆	◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」だけでなく、課題の提出、ノート提出、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。

5 履修上の注意

教科書は1年次に使用した「国語総合」と2年次に使用する「現代文」を使用します。
国語の基本的な事柄を中心に学習していきます。

教科：国語 科目：現代文B（3年）

履修学年 3学年	履修単位（時間） 3単位（105時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：精選現代文B（大修館書店）…2年次の継続			
副教材等：常用漢字クリア（尚文出版）、常用国語便覧（浜島書店）、国語辞典			

1 学習目標

2年次に引き続き、近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	評論	7	「心に「海」を持って」山崎正和 ・国際社会と日本のかかわり方について考える。	◆		◆	◆	
	評論	8	「こころは見える？」鷺田清一 ・文章の構成、段落の関係を理解し、「こころとは何か」について自らの問題として考える。 常用漢字クリア（同音異字Ⅰ～同訓異字Ⅱ）			◆	◆	◆
								◆
1 学期 期末	小説	7	「赤い繭」安部公房 ・反リアリズム小説のおもしろさを味わう。 ・感想文	◆			◆	◆
	評論	6	「あらわれ」と「消え去り」－日本のアート 榎木野衣 ・文章の構成や段落相互の関係を読み取りながら、筆者の考える「アートの可能性」について考えを深める。			◆	◆	◆
	短歌・俳句	8	「短歌 十三首」「俳句 十五句」 ・近代短歌・俳句の特徴をつかみ、親しむ。 常用漢字クリア（三字熟語～四字熟語Ⅰ）		◆		◆	◆
2 学期 中間	小説	18	「舞姫」森鷗外 ・登場人物の心理を読みとり、近代的自我の目覚めについて考える。		◆	◆	◆	◆
	評論	6	「自己演技と表情」野村雅一 ・国際比較の中で日本人の傾向をとらえる。 常用漢字クリア（四字熟語Ⅱ～四字熟語Ⅲ）			◆	◆	◆
							◆	◆
2 学期 期末	評論	7	「無常ということ」小林秀雄 ・古典に言及した現代人批判について考える。		◆	◆	◆	◆
		11	「猫は後悔するか」野矢茂樹 ・哲学的な文章に触れ、論理学の論証方法を参考にする。 常用漢字クリア（故事成語・慣用句Ⅰ～慣用句Ⅱ）				◆	◆
							◆	◆
3 学期	近代の文章	27	「漫罵」北村透谷「たけくらべ」樋口一葉 他 ・近代の文体の変遷について理解を深める。 常用漢字クリア（誤字訂正～難読語Ⅲ）			◆	◆	◆
							◆	◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」を中心に、授業時間中に行う漢字小テスト、課題の提出、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。漢字小テスト4回分を各定期考査の範囲に含めて出題します。

5 履修上の注意

2年次の現代文に引き続き、週の初めの現代文の時間に常用漢字クリアより範囲を定め漢字の小テストを行います。
2年次の教科書を引き続き使用し、Ⅱ部を中心に学習します。

教科：国語 科目：古典B（2年）

履修学年 2学年	履修単位（時間） 3単位（105時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：精選 古典B改訂版（大修館書店）			
副教材等：常用国語便覧（浜島書店）、古語辞典			

1 学習目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	古文編 説話 物語	3	『十訓抄』大江山いくのの道 ・説話のおもしろさ、感性を理解する。	◆			◆	
		5	『伊勢物語』 ・和歌を中心として展開する叙情的な美しさを味わう。	◆	◆		◆	
	漢文編 故事成語	7	『知音』『画竜点睛』『塞翁馬』 ・故事成語から漢文に親しむ。	◆	◆			◆
1 学期 期末	古文編 随筆 日記	6	『方丈記』ゆく河の流れ ・中世の無常観・文体の特徴を味わう。	◆		◆	◆	
		4	『土佐日記』白波 ・仮名日記文学について理解する。	◆		◆		◆
	漢文編 文章	7	「桃花源記」陶潜 ・再読文字・使役形	◆			◆	◆
		4	「師説」韓愈 ・部分否定・疑問形	◆			◆	
2 学期 中間	古文編 日記	8	『更級日記』 ・女流日記文学について理解する。	◆		◆		◆
	漢文編 史伝	16	「鴻門之会」「四面楚歌」「史記」司馬遷 ・『史記』について・歴史的背景 ・疑問形・抑揚形・使役形	◆	◆			◆
2 学期 期末	古文編 随筆	10	『枕草子』清少納言 ・作者について・中古の随筆	◆				◆
	漢文編 思想	4	『論語』・孔子の思想について理解する。	◆				◆
		4	『孟子』・性善説について理解する。					◆
3 学期	古文編 俳諧 物語	11	『芭蕉・蕪村・一茶』 ・近世の俳句に親しむ。	◆	◆	◆	◆	
		8	『大鏡』・歴史物語について理解する。	◆				◆
	漢文編 逸話と寓話	8	「不死之薬」「売油翁」	◆	◆			◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」を中心に提出物、授業態度等を勘案し、総合的に評価します。

5 履修上の注意

ノートをきちんと取ってください。各学期ごとのノート提出は、評価の対象とします。

教科：国語 科目：古典B（3年）

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：精選古典B（大修館書店）…2 年次の継続			
副教材等：常用国語便覧（浜島書店）、古語辞典			

1 学習目標

2 年次に引き続き、古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	古文編 日記	6	『蜻蛉日記』『紫式部日記』 ・中古の女流日記を読み較べることによって、当時の女性の思いを感じ取る。			◆	◆	◆
	漢文編 小説	4	「人虎伝」李景亮 ・漢文の不思議なストーリーを味わう。	◆	◆		◆	◆
1 学期	古文編 物語	10	『源氏物語』 ・作者について ・全体のストーリーについて			◆	◆	◆
	漢文編 漢詩	4	「長恨歌」白居易 ・日本文学に大きな影響を与えた白居易の詩を理解する。	◆			◆	◆
2 学期	古文編 評論	8	『無名抄』『おもて歌』 『風姿花伝』『因果の花』 『玉勝間』『師の説になづまざること』			◆		◆
	漢文編 漢詩	8	李白「秋浦歌」「送友人」 杜甫「登高」「月夜」 ・中国の代表的な詩人李白と杜甫の詩を読み比べ、理解する。	◆	◆		◆	◆
2 学期	古文編 小説	5	『西鶴諸国ばなし』『大晦日あはぬ算用』 ・近世の小説を理解し、そこに描かれる人間の姿を読みとる。	◆			◆	◆
	漢文編 思想	7	「老子」「莊子」「荀子」「韓非子」 ・中国の思想を読み較べ、人間の生き方についての理解を深める。			◆	◆	◆
3 学期	古文編 和歌	5 5	『万葉集』 『古今和歌集』 ・上代、中古の和歌を原文で味わうことによって、古文に対する理解を深める。	◆			◆	◆
	漢文編 日本漢文	8	「題自我」夏目漱石 「将東遊題壁」月性 「題不識庵撃機山図」頼山陽 ・日本人の作った漢文を味わうことで、日本人の古典としての漢文を理解する。		◆	◆		◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
読：読む能力 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」を中心に、授業態度等を勘案し、総合的に評価します。

5 履修上の注意

教科書は、2年次に使用したものを継続使用します。

教科：国語

科目：探究国語

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	3 単位（105 時間）	選択科目（G 群）	特になし
使用準教科書：精選国語総合（三省堂） 探求現代文B（桐原書店）			
副教材等：常用漢字クリア（尚文出版）、常用国語便覧（浜島書店）、国語辞典			

1 学習目標

・現代文分野では、評論を中心に近代以降の様々な文章を読み、論理構成やその根拠を的確に把握する能力を育成し、そこから自分なりの関心や問題意識を持ち、知識を深める手法を身に付ける。

・論理的思考活動を基に応用力を鍛錬し、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

・古典分野では、漢文では思想、古文では韻文を中心に学び、我が国に影響を与えた思想や、我が国独自の美意識を育てた文化に親しむ。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点				
				関	話	書	読	知
1 学期 中間	随想	7	「自己とは何か(あるいはおいしい牡蠣フライの食べ方)」村上春樹 ・随筆の読み方を習得し、面白さを味わう。	◆			◆	◆
	随想	8	「偽りの答案」吉田喜重 ・筆者が少年時代の出来事を回想した随想を読み、身近な体験から生じた「気づき」が、人生の本質への思索につながる内容を読み味わう。	◆			◆	◆
1 学期 期末	詩	7	「ふと」吉原幸子 他 ・詩の読み方を習得し、表現上の特色を捉え、詩の言葉が持つ魅力を発見する。	◆	◆			◆
	和歌	7	「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」 ・和歌に詠われた心情をとらえ、その心情を表すための表現技法等を学ぶ。	◆	◆			◆
	表現 1	7	テーマ型小論文を書く	◆		◆		
2 学期 中間	評論Ⅱ	10	「暴力はどこからきたか」山際 寿一 ・共同体の発展と暴力の関係性を認識する。 ・筆者の主張を読み取り、戦争や暴力を抑止する手段を考える。	◆			◆	◆
	漢文	14	「論語・孟子」 ・我が国に影響を与えた中国の思想を読み、現代にも通じる考え方を学ぶ。	◆			◆	◆
2 学期 期末	評論Ⅲ	6	「木を伐る人/植える人」赤坂憲雄 ・二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方を習得する。	◆			◆	◆
	評論Ⅲ	6	「ネットワークとコミュニケーション」江下雅之 ・ネットワーク上のコミュニケーションにおいて感情的な対立が生じやすい原因を考察する。	◆			◆	◆
	表現 5	6	課題型小論文を書く	◆		◆		
3 学期	評論Ⅱ	27	「科学者とは何か」村上陽一郎 ・現代科学の特徴を理解し、現代科学が直面している問題を認識する。	◆			◆	◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力

読：読む能力

知：知識・理解

4 評価方法

定期考査、授業時間内外に行う課題の提出、各種テスト(音読他)、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。

5 履修上の注意

国語について、幅広くかつ深く学習する。読解中心となるので、それを理解した上で選択すること。

教科：地理歴史

科目：世界史B（2年）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
2 学年	4 単位（140 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：詳説世界史（山川出版社）			
副教材等：ニュースページ世界史詳覧（浜島書店）			

1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	序章 先史の世界	1	人類の進化・文化から文明へ	◆			
	第1章 オリエンと地中海世界	10	古代オリエン世界・ギリシア世界・ローマ世界	◆			◆
	第2章 アジア・アメリカの古代文明	9	インドの古典文明・東南アジアの諸文明・中国の古典文明・南北アメリカ文明	◆			◆
1 学期 期末	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	12	草原の遊牧民とオアシスの定住民・北方民族の活動と中国の分裂・東アジア文化圏の形成	◆	◆		◆
	第4章 イスラーム世界の形成と発展	7	イスラーム世界の形成・イスラーム世界の発展・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 イスラーム文明の発展	◆		◆	◆
	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	9	西欧世界の成立・東欧世界の成立・西欧中世世界の変容・西欧の中世文化	◆	◆		◆
2 学期 中間	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	4	トルコ化とイスラーム化の進展・東アジア諸地域の自立化・モンゴルの大帝国	◆		◆	
	第7章 アジア諸地域の繁栄	7	東アジア世界の動向・清代の中国と隣接諸地域・トルコ・イラン世界、ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	◆		◆	◆
	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	7	ヨーロッパ世界の拡大・ルネサンス・宗教改革・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	◆		◆	◆
	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	7	重商主義と啓蒙専制主義・欧州諸国の海外進出・17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	◆	◆		◆
	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成	7	産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命とナポレオン	◆	◆		◆
2 学期 期末	第11章 欧米における近代国民国家の発展	8	ウィーン体制の成立・ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生・南北アメリカの発展・19世紀欧米の文化	◆	◆		◆
	第12章 アジア諸地域の動揺	8	オスマン帝国支配の動揺と西アジア諸地域の変容・南アジア・東南アジアの植民地化、東アジアの激動	◆		◆	◆
	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	8	帝国主義と列強の展開・世界分割と列強対立・アジア諸国の改革と民族運動	◆	◆		◆

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
3 学期	第14章 二つの世界大戦	18	第一次世界大戦とロシア革命・ヴェルサイユ体制下の欧米、アジア・アフリカの民族運動・世界恐慌とファシズム諸国の侵略・第二次世界大戦	◆	◆		◆
	第15章 冷戦と第三世界の自立	9	戦後世界秩序の形成・アジアの独立・冷戦の激化・西欧・日本の経済復興・世界の多極化・第三世界の台頭と米ソの接近・石油危機と世界経済の再編	◆	◆		◆
	第16章 現代の世界	9	社会主義世界の変容とグローバル化・途上国の民主化・地域紛争の激化・現代文明の特徴	◆	◆		◆

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

国際化の時代といわれます、世界の歴史をしっかりと理解して下さい。覚えなければならないことがたくさんありますが、整理しながら着実に取り組み、知識の定着を図りましょう。

教科：地理歴史

科目：世界史総合（3年選択）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	2 単位（70 時間）	選択科目（E 群）	特になし
使用教科書：詳説世界史B改訂版（山川出版社）、詳説日本史B改訂版（山川出版社）			
副教材等：ニュースページ世界史詳覧（浜島書店）、日本史のアーカイブ（とうほう）			

1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れと、我が国の歴史の展開を互いに関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色や世界の文化の多様性についての認識を深めさせ、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	テーマ	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	(1) 帝国主義時代の世界と日本	10	帝国主義の列強諸国	◆			◆
			世界分割と列強対立	◆	◆		◆
			アジアの民族運動	◆		◆	◆
			日清戦争・日露戦争・韓国併合	◆		◆	◆
1 学期 期末	(2) 第一次世界大戦期の世界と日本	6	第一次世界大戦と日本	◆		◆	◆
			ロシア革命	◆			◆
			アジア民族主義の進展	◆			◆
	(3) 戦間期の世界と日本	8	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	◆	◆		◆
2 学期 中間	(4) 第二次世界大戦期の世界と日本	16	ワシントン体制下の日本	◆		◆	◆
			アジア諸国の民族運動と日本	◆		◆	◆
			世界恐慌	◆	◆		◆
			ファシズム諸国の侵略	◆		◆	◆
2 学期 期末	(5) 東西冷戦期の世界と日本	12	満州事変・日中戦争	◆		◆	◆
			第二次世界大戦	◆	◆		◆
			東西対立の始まり	◆	◆		◆
			第三世界の自立	◆	◆		◆
3 学期	(6) 現代の世界と日本	18	占領下の日本	◆		◆	
			冷戦の展開と日本・ヨーロッパの復興	◆		◆	◆
			米ソ両大国の動揺	◆		◆	◆
			冷戦の解消と世界の多極化	◆		◆	◆
			社会主義圏の解体と変容	◆		◆	◆
			日本社会の動揺	◆		◆	◆
			第三世界の多元化と地域紛争	◆	◆		◆
				◆	◆		◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用 of 技能 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

世界史に興味・関心を持ち、より知識を深めたい人の履修を望みます。

教科：地理歴史

科目：日本史B

履修学年 3 学年	履修単位 (時間) 4 単位 (140 時間)	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：詳説日本史 (山川出版社)			
副教材等：写真資料館 日本史のアーカイブ (とうほう)			

1 学習目標

我が国の歴史の展開を、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	第1章 日本文化のあけぼの	6	文化の始まり・農耕社会の成立・古墳とヤマト政権	◆			◆
	第2章 律令国家の形成	8	飛鳥の朝廷・律令国家の成立・平城京の時代・天平文化・平安朝廷の形成	◆			◆
	第3章 貴族政治と国風文化	6	摂関政治・国風文化・荘園と武士	◆	◆		◆
1 学期	第4章 中世社会の成立	16	院政と平氏の台頭・鎌倉幕府の成立・武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退・鎌倉文化	◆			◆
	第5章 武家社会の成長	12	室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭	◆			◆
2 学期	第5章 武家社会の成長	6	室町文化・戦国大名の登場	◆	◆		◆
	第6章 幕藩体制の確立	13	織豊政権・桃山文化・幕藩体制の確立	◆	◆		◆
	第7章 幕藩体制の展開	13	幕政の安定・経済の発展・元禄文化	◆		◆	◆
2 学期	第8章 幕藩体制の動揺	10	幕政の改革・幕府の衰退・化政文化	◆	◆		◆
	第9章 近代国家の成立	14	開国と幕府の動乱・明治維新と富国強兵・立憲国家の成立と日清戦争・日露戦争と国際関係・近代産業の発展・近代文化の発達	◆		◆	◆
3 学期	第10章 二つの世界大戦とアジア	18	第一次世界大戦と日本・ワシントン体制・市民文化・恐慌の時代・軍部の台頭・第二次世界大戦	◆	◆		◆
	第11章 占領下の日本	10	占領と改革・冷戦の開始と講和	◆	◆		◆
	第12章 高度成長の時代	4	55年体制・経済復興から高度成長へ	◆	◆		◆
	第13章 激動する世界と日本	4	経済大国への道・冷戦終結と日本社会の動揺	◆	◆		◆

計140時間 (50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能・表現 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

日本の歴史を考える基本的な方法を身に付ける意識を持つことが大切です。知識があっても初めて考えることが出来ることのできるのですから、単なる暗記科目としてではなく、自ら考えることを大切に学習して下さい。

教科：公民 科目：倫理

履修学年 1 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：高校倫理（実教出版）			
副教材等：なし			

1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生命に関する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者とともに生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸問題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己の確立の課題とつなげて理解し、人間形成に生かす知識として身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	第 1 章	4	人間とは何か・青年期とは何か・自立への課題・自己形成の課題	◆	◆	◆	
	第 2 章 青年期の課題と自己形成						
	第 3 章	6	ギリシア思想・キリスト教		◆	◆	◆
1 学期	人間としての自覚						
	第 4 章	7	イスラーム・仏教・中国思想・芸術と人生	◆	◆		◆
	人間としての自覚						
2 学期	第 5 章	7	古代日本人の思想・日本の仏教思想・近世日本の思想	◆	◆		
	日本人としての自覚						
	第 5 章	6	西洋思想の受容と展開	◆	◆		◆
2 学期	日本人としての自覚						
	第 1 章	10	人間の尊厳・科学技術と人間	◆	◆		
	現代に生きる人間の倫理			◆	◆		
2 学期 期末	第 1 章	12	民主社会と自由の実現・社会と個人	◆	◆		◆
	現代に生きる人間の倫理				◆		◆
3 学期	第 1 章	2	人間への新たな問い・社会参加と幸福	◆	◆		
	現代に生きる人間の倫理						
	第 2 章	16	生命の倫理・環境の倫理・家族・地域社会の課題・高度情報化社会の課題・文化と宗教の課題・国際平和と人類の福祉の課題	◆	◆	◆	
現代の諸課題と倫理				◆	◆	◆	

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

倫理では、自分自身の生き方について考えます。過去の思想家の思想、現代社会の課題などを学ぶことによってそのきっかけを得ることができます。難しいと思わず丁寧に教科書を読むことが大切です。覚えなければいけないことはたくさんありますが、必要なことはしっかり覚えて下さい。

教科：公民 科目：政治・経済（1年）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位（70 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：政治・経済（東京書籍）			
副教材等：新版 最新政治・経済資料集（第一学習社）			

1 学習目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原理と日本国憲法	10	政治と法の機能・人権保障と法の支配・議会制民主主義と世界の政治体制・日本国憲法の基本原則・平和主義と自衛隊	◆	◆		◆
	第1章 民主政治の基本原理と日本国憲法	4 10	基本的人権の保障と新しい人権 国会の組織と立法・内閣の機構と行政・裁判所の機能と司法制度・地方自治制度と住民の権利・政党政治と選挙制度、世論の役割	◆ ◆	◆ ◆		◆
2 学期 中間	第2章 現代の国際政治と日本	8	国際社会と国際法・国際連合の組織と役割・国際政治の動向・国際紛争と難民問題、国際平和と日本の役割	◆	◆		
	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質	8	経済社会の発展・経済主体と経済活動・市場経済の機能と限界・経済成長と景気変動				◆
2 学期 期末	第1章 現代経済のしくみと特質	12	財政のしくみと働き・金融のしくみと働き・日本経済の歩み・中小企業の地位と役割・農業の現状と課題・高度情報社会の進展と課題・労働問題			◆	◆
	第1章 現代経済のしくみと特質	3	社会保障制度の充実・環境保全と資源エネルギー問題	◆		◆	◆
3 学期	第2章 国民経済と国際経済	6	国際経済のしくみ・国際協調と国際経済機関の役割・国際経済の諸問題と日本の役割	◆			◆
	第3編 現代社会の諸問題	4	現代日本の政治や経済の諸課題	◆	◆	◆	
		5	国際社会の政治や経済の諸課題	◆	◆	◆	

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用 of 技能 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

現代の政治・経済に対する関心・理解を深めて下さい。政治分野においては日本国憲法を中心に学習します。経済分野においては、経済のしくみの基礎を学習します。現代社会の動きに対する関心を深められるように新聞等の活用もしていきます。

教科：公民 科目：政治・経済総合（3年選択）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	2 単位（70 時間）	選択科目（E 群）	特になし
使用教科書：新版政治・経済（実教出版）、倫理（実教出版）			
副教材等：テーマ別資料 政治・経済2013（とうほう）			

1 学習目標

民主主義の本質に関する理解並びに、人間としての在り方生き方についての理解と思索を深めさせるとともに、現代における政治、経済、国際関係などに関する諸問題について考察させながら、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促すことで、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	テーマ	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	(1) 現代国家と民主政治およびその思想的背景	10	民主政治の成立・社会契約説—ホッブズ、ロック、ルソー・人倫—ヘーゲル	◆			◆
			民主政治の基本原則・議会制民主主義と各国の政治制度	◆		◆	
1 学期 期末	(2) 現代の国際政治と倫理的課題	14	国際社会と国際法・国際連合と国際協力・第二次世界大戦後の国際政治・平和の思想・人類の福祉の課題	◆			◆
2 学期 中間	(3) 現代経済のしくみとその思想的背景	16	個人と社会の調和—功利主義・資本主義経済の成立と発展・現代の資本主義経済・マルクス主義・社会主義経済の形成と変容	◆		◆	
2 学期 期末	(4) 現代の日本経済と倫理的課題	12	日本経済のあゆみと現状	◆	◆		◆
			日本の公害問題	◆		◆	◆
			環境の倫理	◆			◆
			労働関係の改善	◆			◆
			社会保障の役割	◆		◆	◆
			家族・地域社会の課題	◆		◆	◆
3 学期	(5) 現代の国際経済と倫理的課題	18	国際経済のしくみ・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界経済の中の日本 現代文明の課題・文化と宗教の課題	◆	◆		◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

4 評価方法

授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。

5 履修上の注意

政治・経済に関心を持ち、より知識を深めたい人の履修を望みます

教科：数学 科目：数学 I

履修学年	履修単位 (時間)	履修形態	履修条件等
1 学年	3 単位 (105 時間)	必修科目	特になし
使用教科書：改訂版 新編 数学 I (数研出版)			
副教材等：3 TRIAL 数学 I + A (数研出版)			

1 学習目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間	1 章 数と式	15	式の計算	①整式 ②整式の加法・減法・乗法 ③因数分解	◆		◆◆
			実数	①実数の定義		◆	◆
1 学期 期末		3	実数	②根号を含む式の計算			
		8	1 次不等式	①不等式の性質 ② 1 次不等式 ③ 1 次不等式の応用		◆◆	◆◆
	2 章 集合と論証	10	集合	①集合 ②補集合とド・モルガンの法則	◆		◆◆
			論証	①命題と条件 ②論証	◆◆		◆◆
2 学期 中間	3 章 2 次関数	24	関数とグラフ	①関数の性質 ② 2 次関数とグラフ ③ 2 次関数の決定 ④ 2 次関数の最大・最小	◆	◆◆	◆◆
			2 次関数のグラフと 2 次不等式	①不等式を解く ②応用問題			◆◆
3 学期	4 章 図形と計量	20	鋭角の三角比	①三角比の定義 ②三角比の相互関係	◆	◆◆	◆◆
			三角比の拡張	①鈍角の三角比 ②三角比の性質		◆◆	◆◆
			三角形への応用	①正弦定理・余弦定理・面積		◆◆	◆◆
	5 章 データの分析	7	データの整理	①データの整理・代表値・箱ひげ図 ②相関関係・相関係数		◆◆	◆◆

計 105 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

高校数学のスタートとして、数学の基礎を学びます。高校の数学は中学の数学と比べ進度も早く、内容も難しく感じるとおもいます。必ず復習をしてわからないところをわからないままにしないようにしましょう。また、授業では理解できていても、問題が解けないことがあります。「わかる」と「できる」は違います。「わかる」を「できる」にするために、きちんと復習する習慣をつけましょう。

教科：数学 科目：数学Ⅱ

履修学年 2 学年	履修単位 (時間) 4 単位 (140 時間)	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版)			
副教材等：3 T R I A L 数学Ⅱ + B (数研出版)			

1 学習目標

式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と充実を図る。また、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育む。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間	1 章 方程式・式と証明	8	整式の乗法・除法と分数式 ①整式の乗法と因数分解 ②二項定理 ③整式の除法 ④分数式とその計算			◆	◆
		6	2 次方程式 ①複素数とその演算 ②解の公式 ③解と係数の関係		◆	◆	◆
		6	高次方程式 ①因数定理 ②簡単な高次方程式		◆	◆	◆
1 学期 期末	2 章 図形と方程式	12	点と直線 ①2点間の距離 ②内分点・外分点 ③直線の方程式 ④2直線の関係			◆	◆
		8	円 ①円の方程式 ②円と直線	◆	◆		◆
		8	軌跡と領域 ①軌跡の方程式 ②不等式の表す領域 ③連立不等式の表す領域		◆	◆	◆
2 学期 中間	3 章 三角関数	20	三角関数 ①一般角 ②三角関数 ③三角関数の性質 ④三角関数のグラフ ⑤三角関数の応用	◆	◆	◆	◆
		12	加法定理 ①加法定理 ②加法定理の応用 ③三角関数の合成			◆	◆
2 学期 期末	4 章 指数関数・対数関数	12	指数関数 ①指数法則 ②累乗根 ③指数の拡張 ④指数関数とそのグラフ	◆		◆	◆
		12	対数関数 ①対数とその性質 ②対数関数とそのグラフ ③常用対数	◆		◆	◆
3 学期	5 章 微分と積分	12	微分係数と導関数 ①微分係数 ②導関数	◆	◆	◆	◆
		12	導関数の応用 ①接線 ②関数の増減と極大・極小 ③関数の最大・最小 ④方程式・不等式への応用	◆	◆	◆	◆
		12	積分 ①不定積分 ②定積分 ③面積	◆	◆	◆	◆

計 140 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

1年生のときに学習した、数学Ⅰおよび数学Aの上に積み重ねていきます。そのため、学習の仕方によっては早くから苦手意識がついてしまい、抜けられなくなってしまう。そうならないために、早めに学習習慣を確立しましょう。また、数学Ⅱは計算量も多く、計算には一定の速度が求められますので、間違いなくきちんとできるように普段からの練習を心がけましょう。

教科：数 学 科目：探求数学

履修学年	履修単位 (時間)	履修形態	履修条件等
3 学年	6 単位 (210 時間)	選択科目 (E 群)	数学Bを必ず履修
使用教科書：数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B (東京書籍)			
副教材等：なし			

1 学習目標

数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bにおける基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

また、数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bの総合的な復習を行うことで、既習事項の深い理解と知識の活用を図る。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間	数学Ⅰの総復習	30	第1章 数と式 第2章 集合と論証 第3章 2次関数	◆	◆	◆	◆
1 学期 期末		21	第4章 図形と計量 第5章 データの分析	◆	◆	◆	◆
	数学Aの総復習	21	第1章 場合の数と確率 第2章 整数の性質 第3章 図形の性質	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	数学Ⅱの総復習	48	第1章 方程式・式と証明 第2章 図形と方程式 第3章 三角関数	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末		36	第4章 指数関数・対数関数 第5章 微分と積分	◆	◆	◆	◆
3 学期	数学Bの総復習	54	第1章 数列 第2章 ベクトル	◆	◆	◆	◆

計 210 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

理系進学や、国公立への進学を少しでも考えている生徒は必ず受講してください。進学希望者には早期から補習を行う予定です。また、進学には利用しないが、ただ数学が好きという生徒の履修も大歓迎です。数学の楽しさにふれ、数学的な見方や考え方を身につけ、論理的にものごとを考える力を養いましょう。

教科：数学

科目：数学A

履修学年	履修単位(時間)	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位 (70 時間)	必修科目	特になし
使用教科書：改訂版 新編 数学A (数研出版)			
副教材等：3 T R I A L 数学 I + A (数研出版)			

1 学習目標

平面図形、整数の性質及び場合の数と確率について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間	1 章 場合の数と確率	2	集合と要素の個数 ①集合と要素の個数				◆
		8	順列と組合せ ①樹形図と場合の数 ②順列 ③組合せ		◆	◆	◆
1 学期 期末		2	順列と組合せ ④二項定理		◆		◆
		5	確率とその基本性質 ①事象と確率 ②確率の基本性質		◆	◆	◆
		7	独立な試行と確率、期待値 ①独立な試行の確率 ②反復試行の確率 ③複雑な事象の確率		◆	◆	◆
2 学期 中間	2 章 整数の性質	2	独立な試行と確率、期待値 ④期待値		◆	◆	◆
		14	整数の性質 ①約数と倍数 ②除法の性質と整数の分類 ③ユークリッドの互除法 ④記数法 ⑤小数と分数	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末	3 章 図形の性質	12	三角形の性質 ①三角形と比 ②三角形の重心・垂心・内心・外心 ③三角形の比の定理		◆	◆	◆
					◆		◆
3 学期		11	円の性質 ①円周角の定理 ②円に内接する四角形 ③接線と弦の作る角 ④方べきの定理 ⑤2つの円	◆	◆		◆
		3	作図 ①いろいろな作図	◆	◆	◆	◆
		4	空間図形 ①直線と平面・多面体		◆		◆

計 70 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考查の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

教科書を中心にさまざまな問題解決方法を考えていきます。中学校までの基本的な計算が習熟できていない生徒はわかるところまで戻って復習してください。

教科：数学 科目：数学B

履修学年 2 学年	履修単位 (時間) 3 単位 (105 時間)	履修形態 選択科目 (B 群)	履修条件等 特になし
使用準教科書：改訂版 新編 数学B (数研出版)			
副教材等：3 T R I A L 数学Ⅱ+B (数研出版)			

1 学習目標

数列、ベクトル、統計または数値計算について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
また、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育む。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間 1 学期 期末	1 章 数列	15	数列 ①数列 ②等差数列 ③等差数列の和 ④等比数列 ⑤等比数列の和	◆	◆		◆
		6	⑥和の記号 Σ ⑦いろいろな数列	◆	◆		◆
		15	漸化式と数学的帰納法 ①漸化式 ②数学的帰納法	◆	◆		◆
2 学期 中間 2 学期 期末 3 学期	2 章 ベクトル	24	平面上のベクトル ①ベクトルの意味 ②ベクトルの加法・減法・実数倍 ③ベクトルの成分 ④ベクトルの内積	◆	◆		◆
		18	ベクトルの応用 ①位置ベクトル ②ベクトル方程式	◆	◆	◆	
		27	空間におけるベクトル ①空間座標 ②空間におけるベクトル ③位置ベクトルと空間の図形	◆	◆		◆

計 105 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

センター試験受験科目です。理系進学や、国公立への進学を少しでも考えている生徒は必ず受講してください。進学希望者には早期から補習を行う予定です。また、進学には利用しないが、ただ数学が好きという生徒の履修も大歓迎です。数学の楽しさにふれ、数学的な見方や考え方を身につけ、論理的にもものごとを考える力を養いましょう。

教科：数学

科目：教養数学

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	3 単位（105 時間）	選択科目（E 群）	特になし
使用準教科書：数学Ⅰ、数学A（東京書籍）、数学Ⅱ（数研出版）			
副教材等：なし			

1 学習目標

数学Ⅰ、数学Aにおける基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
また、数学Ⅰ、数学Aの総合的な復習を行うことで、既習事項の深い理解と知識の活用を図る。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	見	技	知
1 学期 中間	中学校の内容の復習	5	①百分率と歩合 ②濃度・速度 ③合同と相似 ④面積	◆	◆	◆	◆
	数と式	5	①式の計算 ②整式 ③乗法公式 ④因数分解 ⑤無理数			◆	◆
	方程式と不等式	5	①1次方程式 ②2次方程式 ③1次不等式 ④2次不等式			◆	◆
1 学期 期末	2次関数	21	①1次関数 ②2次関数 ③2次関数の最大・最小 ★課題学習	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	図形と計量	24	①三角比 ②三角比の相互関係 ③正弦定理 ④余弦定理 ⑤図形の計量	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末	個数の処理	9	①集合 ②場合の数 ③順列 ④組合せ	◆	◆	◆	◆
	確率	9	①確率 ②期待値 ★課題学習	◆	◆	◆	◆
3 学期	平面図形	13	①図形と角度 ②円の性質	◆	◆	◆	◆
	論理	14	①命題と論理 ★課題学習	◆	◆		◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方
技：数学的な技能 知：知識・理解

4 評価方法

定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。

5 履修上の注意

就職試験や専門学校進学に向けた基礎的な力を養います。就職する生徒や数学が得意でない生徒は必ず履修してください。

教科：理科

科目：物理基礎

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位（70 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：高等学校新物理基礎（第一学習社）			
副教材等：なし			

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	第Ⅰ章 力と運動	10	第1節 物体の運動 ①速度 ②加速度 ③落体の運動		◆		◆
1 学期 期末		14	第2節 力と運動の法則 ①力とそのはたらき ②力のつりあい ③運動の法則 ④摩擦を受ける運動 ⑤液体や気体から受ける力		◆	◆	◆
2 学期 中間	第Ⅱ章 エネルギー	16	第1節 仕事と力学的エネルギー ①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存 第2節 熱とエネルギー ①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事 ④不可逆変化と熱機関		◆		◆
2 学期 期末	第Ⅲ章 波動	12	第1節 波の性質 ①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理 第2節 音波 ①音の性質 ②発音体の振動と共鳴・共振	◆	◆	◆	◆
3 学期	第Ⅳ章 電気	18	第1節 電荷と電流 ①電気の性質 ②電流と電気抵抗 ③電気とエネルギー 第2節 電流と電磁 ①交流 ②電磁波 第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子力エネルギー		◆		◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト、②提出物および小テスト、③授業態度、④出席状況をもとに評価する。

5 履修上の注意

物理学の基礎を学びます。工学系の大学や専門学校への進学を希望する生徒は特に学習に力を入れて下さい。物理の学習を通じて身につけた思考方法は、学んだことを直接利用することなくとも、必ず社会で役立ちますので、一生懸命学習に取り組んで下さい。

教科：理科 科目：物理（2年選択）

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 選択科目（C 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：高等学校物理（第一学習社）			
副教材等：改訂 スタディノート物理（第一学習社）			

1 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	第Ⅳ章	10	第1節 電荷と電流 ①電荷 ②電流と電気抵抗 ③物質と抵抗率 ④直流回路	◆	◆	◆	◆
			第2節 電流と磁場 ①磁場 ②交流の発生と利用 ③電磁波 第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子力エネルギー	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	第Ⅰ章 運動とエネルギー	16	第1節 平面運動と剛体のつりあい ①平面運動 ②放物運動 ③剛体にはたらく力 第2節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数	◆	◆	◆	◆
			第3節 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 第4節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事	◆	◆	◆	◆
3 学期 期末	第Ⅱ章 波動	18	第1節 波の伝わり方 ①波の性質 ②波の干渉・反射・屈折・回折 第2節 音波 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果	◆	◆	◆	◆
				◆	◆	◆	◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能 知：知識・理解

4 評価方法

①定期考査 ②各種小テスト ③提出物 ④授業や実験に対する意欲態度 ⑤出席状況

5 履修上の注意

工学系の大学や専門学校への進学を希望する生徒は基本的に履修すべきです。大学進学希望者に対しては補習を行い、受験に備えます。

物理の学習を通じて身につけた思考方法は、学んだことを直接利用することはなくとも必ず役に立ちます。進学に直接利用しない生徒の履修也大歓迎です。

教科：理科 科目：物理（3年選択）

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 選択科目（D 群）	履修条件等 2 年からの継続履修
使用教科書：高等学校物理（第一学習社）			
副教材等：改訂 スタディノート物理（第一学習社）			

1 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	第Ⅰ章 平面運動と剛体のつりあい	15	第1節 平面運動と剛体のつりあい ①平面運動 ②放物運動 ③剛体にはたらく力	◆	◆	◆	◆
1 学期 期末	第Ⅱ章 波動 第Ⅲ章 電気と磁気	21	第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 第1節 電場と電位 ①電場 ②電位 ③コンデンサー				
2 学期 中間		24	第2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 ③半導体 第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流が磁場から受ける力 ③ローレンツ力	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末		18	第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②交流 ③電磁波	◆	◆	◆	◆
3 学期	第Ⅳ章 原子	27	第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙	◆	◆	◆	◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

①定期考査 ②各種小テスト ③提出物 ④授業や実験に対する意欲態度 ⑤出席状況

5 履修上の注意

工学系の大学や専門学校への進学を希望する生徒は基本的に履修すべきです。大学進学希望者に対しては補習を行い、受験に備えます。

物理の学習を通じて身につけた思考方法は、学んだことを直接利用することはなくとも必ず役に立ちます。進学に直接利用しない生徒の履修も大歓迎です。

教科：理科 科目：化学基礎

履修学年 2 学年	履修単位 (時間) 3 単位 (105 時間)	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：改訂 新編化学基礎 (東京書籍)			
副教材等：ニューサポート改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)			

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	化学と人間生活	5	文明と金属 (銅、鉄、アルミニウム) セラミックス、繊維、食料の確保・保存 洗剤、環境リスク	◆	◆		◆
	物質の探究	6	物質の性質と分離 (混合物と純物質、分離精製) 物質の成分 (元素、単体と化合物) 物質の三態 (粒子の熱運動、絶対温度)		◆	◆	
	物質の構成粒子	4	原子の構造 (原子核と、電子、同位体) 電子配置 (電子殻と電子配置、価電子)		◆		◆
1 学期 期末	物質の構成粒子	6	電子配置と周期表 (周期律と周期表) 元素の分類 (同族元素、典型元素と遷移元素)	◆		◆	◆
	物質と化学結合	15	イオン (陽・陰イオン、イオン形成) とイオン結合、金属と自由電子と金属結合、分子と共有結合、電子式・構造式 化学結合と物質の性質	◆		◆	◆
2 学期 中間	物質と化学変化	10	原子量・分子量 (相対質量、アボガドロ数) と物質量 (モル数・粒子数・質量・体積との換算)	◆	◆	◆	◆
		14	化学反応式 (書き方、イオン反応式) 化学変化の量的関係 (係数と量的関係) 化学に関する法則 (質量保存、定比例、気体反応、倍数比例)		◆	◆	
2 学期 期末	酸と塩基	4	酸と塩基の性質 (定義)、分類 (価数、強弱)	◆	◆		◆
		3	水素イオン濃度と pH	◆	◆	◆	◆
		5	中和反応と塩の生成 (反応式、塩の分類と性質)	◆	◆		◆
		6	中和反応の量的関係と中和滴定		◆	◆	
3 学期 期末	酸化と還元	4	酸化還元と酸素・水素・電子	◆	◆		◆
		6	酸化還元と酸化数、酸化剤・還元剤		◆	◆	◆
		4	イオン化傾向と反応性	◆	◆		◆
		13	電池、電気分解	◆		◆	◆

計105時間 (50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト②提出物 ③授業態度 ④出席状況をもとに判断する。

5 履修上の注意

身の回りの物質、現象について考え、興味・関心を持つように心がけて、学習に取り組んでください。

教科：理科 科目：化学（3年選択）

履修学年 3学年	履修単位（時間） 4単位（140時間）	履修形態 選択科目（F群）	履修条件等 特になし
使用教科書：新編化学（東京書籍）			
副教材等：なし			

1 学習目標

化学的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学期	単元	時数	学習内容	評価の観点			
				関	技	思	知
1学期 中間	状態変化	6	三態変化とエネルギー。気体の圧力、蒸気圧。	◆		◆	◆
	気体の性質	14	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式。混合気体の圧力。理想気体と実在気体。	◆	◆	◆	
1学期 期末	溶液の性質(1)	10	溶解と溶液。溶解平衡。固体の溶解度。気体の溶解度。	◆	◆	◆	◆
	溶液の性質(2)	18	希薄溶液の性質（沸点上昇、凝固点降下、浸透圧）。コロイド溶液。	◆	◆	◆	◆
2学期 中間	固体の構造	6	結晶の種類と性質。（イオン結晶、分子結晶、金属結晶、共有結合結晶）	◆		◆	◆
	化学反応とエネルギー	12	反応熱と熱化学方程式。ヘスの法則。結合エネルギー	◆	◆	◆	◆
	電池と電気分解	5	酸化還元反応と電池、電気分解。（化学基礎の復習を含む）	◆	◆	◆	◆
	化学反応の速さ	9	反応速度と速度を変える条件。反応のしくみと活性化エネルギー。	◆		◆	◆
2学期 期末	化学平衡	7	可逆反応と化学平衡。平衡定数。化学平衡の法則。	◆	◆	◆	◆
	電解質水溶液の平衡	9	電離平衡。水の電離平衡とpH。塩と化学平衡。生体を構成する物質や、酵素反応などを学習す	◆	◆	◆	◆
	無機物質	8	非金属元素、典型金属元素、遷移元素（単体、化合物、人間生活とのかかわり）。	◆		◆	◆
3学期	有機化合物	18	特徴と分類。炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物。	◆	◆	◆	◆
	高分子化合物	18	天然高分子化合物（糖、タンパク質等）。合成高分子化合物（合成繊維、プラスチック、ゴム）。	◆	◆	◆	◆

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト②提出物および小テスト④授業態度⑤出席状況をもとに判断する。また、課題研究に関してはレポートや自己評価カードなどで総合的観点で評価する。

5 履修上の注意

工学系の大学や専門学校への進学を希望する生徒は基本的に履修すべきです。大学進学希望者に対しては補習を行い、受験に備えます。進学に直接利用しない生徒も、化学基礎で関心を持った生徒は是非履修してください。

教科：理科 科目：生物基礎

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位（70 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：高等学校 改訂 新生物基礎（第一学習社出版）			
副教材等：ネオパルノート改訂 生物基礎（第一学習社出版）			

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	生物の特徴 ・生物にみられる多様性と共通性 ・細胞とエネルギー	5	生物の多様性、共通性、細胞などの共通性について理解する。	◆	◆		
		5	代謝とエネルギー、酵素の働きについて理解する。	◆	◆		◆
1 学期 期末	・光合成と呼吸 遺伝子とそのはたらき ・遺伝子とDNA ・DNAの構造と遺伝情報	6	光合成と呼吸を通して、代謝とエネルギーの関わりを理解する。	◆	◆		◆
		2	遺伝と遺伝子、遺伝子とDNAについて理解する。	◆	◆		◆
		6	DNAの構造、遺伝情報とDNA、DNAと染色体の関係を理解する。		◆	◆	◆
2 学期	・遺伝情報の発現 ・タンパク質の合成 ・遺伝子の働き	2	DNAの転写、翻訳の過程を理解する。		◆	◆	◆
		5	タンパク質の合成が遺伝情報の発現であることを理解する。	◆	◆		◆
		5	遺伝情報が正確に複製され、受け継がれることを理解する。	◆	◆	◆	◆
	体内環境と恒常性 ・生物の体内環境	4	体内環境である体液について学習し、恒常性について理解する。	◆	◆		◆
2 学期 期末	・体内環境を維持するしくみ ・生体防御	4	腎臓・肝臓の働きの働きから体内環境の維持を学習し、理解する。	◆	◆		◆
		4	自律神経系・内分泌系の働きから体内環境の維持を学習し、理解する。	◆	◆	◆	◆
		4	生体防御における免疫について学習し、私たち自身のからだの健康を理解する。	◆	◆		
3 学期	植生の多様性と分布	9	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。	◆			◆
	生態系とその保全	9	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。	◆	◆		

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト②提出物 ③授業態度 ④出席状況をもとに判断する。

5 履修上の注意

生物、生命について考え、興味・関心を持つように心がけて、意欲的に学習に取り組んでください。

教科：理科 科目：生物（2年選択）

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 選択科目（C 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：高等学校 生物（第一学習社）			
副教材等：スタディノート生物（第一学習社）			

1 学習目標

生物や生物現象に探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	生体物質と細胞	2	生物の体の構造と階層性、細胞構成物質	◆			
	細胞膜と物質の移動	4	細胞膜の性質と物質の透過性				◆
	生命現象とタンパク質	4	タンパク質の構造と性質、酵素		◆	◆	◆
1 学期 期末	代謝とエネルギー代謝	1	代謝	◆			◆
	同化	7	光合成と葉緑体、光合成の過程、窒素同化		◆		◆
	異化	6	異化によるエネルギー獲得、発酵、呼吸	◆	◆		◆
2 学期	遺伝情報とその発現	8	DNA の構造、複製、発現	◆	◆		◆
	遺伝子の発現調節	8	遺伝子の発現とその調節のしくみ	◆	◆		◆
2 学期 期末	バイオテクノロジー	2	遺伝子を扱う技術、応用、課題	◆		◆	◆
	減数分裂と受精	6	無性生殖、有性生殖、減数分裂、生殖細胞形成	◆		◆	◆
	遺伝子と染色体	4	遺伝情報の分配、連鎖と組み換え		◆	◆	◆
3 学期	配偶子形成と受精	5	動物の配偶子形成、受精	◆	◆		◆
	初期発生の過程	7	卵の種類と卵割、ウニの発生、カエルの発生、杯葉の分化	◆	◆	◆	◆
	細胞の分化と形態形成	6	誘導と形成体の働き、誘導のしくみ、形態形成と遺伝子	◆	◆		◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト ②提出物および小テスト ③授業態度 をもとに判断する。

5 履修上の注意

次年度の内容と継続して履修する。理科、とりわけ生物に関する関心や意欲が大切になる。いろいろと知ることが楽しい人であれば、どんどん実力がつく教科である。生物基礎で関心を持った生徒は是非履修してください。

教科：理科 科目：生物（3年選択）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	3 単位（105 時間）	選択科目（D 群）	2 年からの継続履修
使用教科書：高等学校生物（第一学習社）			
副教材等：スタディノート生物（第一学習社）			

1 学習目標

生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	植物の発生	8	植物の体制と発生の特徴、配偶子形成と胚発生	◆	◆		◆
		7	植物の器官の分化	◆	◆		◆
1 学期 期末	植物の環境応答	7	環境変化とその応答	◆	◆		◆
	植物ホルモンと働き	7	成長ホルモンの種類と働き	◆	◆	◆	◆
	光に対する環境応答	7	花芽形成と発芽調節	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	動物の反応と行動	16	刺激の受容、神経系、効果器	◆	◆		◆
	動物の行動	8	生得的な行動、学習による行動	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末	個体群	5	個体群、群内・群外の相互作用	◆	◆		◆
	生物群集	7	共存するしくみ、環境形成作用と多種共存、	◆	◆		◆
	生態系	7	生態系の物質生産、エネルギー移動、生物多様性				
3 学期	進化のしくみ	7	進化の証拠、しくみ	◆	◆		◆
	生物の起源と変遷	10	生命の誕生、原核生物～真核生物、地質時代	◆	◆		◆
	生物の分類と系統	10	分類の考え方、系統関係	◆	◆		◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト②提出物および小テスト④授業態度⑤出席状況をもとに判断する。

5 履修上の注意

理科、とりわけ生物に関する関心や意欲が大切になる。いろいろと知ることが楽しい人であれば、どんどん実力がつく教科である。生物基礎で関心を持った生徒は是非2,3年で履修してください。

教科：理科 科目：探究理科（3年選択）

履修学年 3学年	履修単位（時間） 3単位（105時間）	履修形態 選択科目（G群）	履修条件等 特になし
使用教科書：新編物理基礎(数研出版)，新編化学基礎(東京書籍)，新編 生物基礎(数研出版) 副教材等：なし			

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体とエネルギー、物質とその変化、生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、自然科学を探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、その見方や考え方を養う

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら自然科学現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	自然科学現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然科学現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然科学現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学期	単元	時数	学習内容	評価の観点			
				関	思	技	知
1学期 中間	生態系とその保全	15	生態系の構成・生態系内の物質・エネルギー循環・生態系と環境について、十日町・津南地域の自然環境を例に、生態系について考え、学ぶ	◆	◆	◆	◆
1学期	物理学と社会	21	エネルギーとその利用・エネルギー資源と発電・生活の中の物理について、十日町・津南地域のエネルギー資源と活用を例に、生活の中にかかわる物理を考え、学ぶ	◆	◆	◆	◆
2学期 中間	化学と人間生活	24	文明と化学について、十日町・津南地域の産業を例に、農業～工業の中で生活にかかわる化学を考え、学ぶ	◆	◆	◆	◆
2学期 期末	課題研究Ⅰ	18	教科書で紹介された具体的な例を基にした課題研究	◆	◆	◆	◆
3学期	課題研究Ⅱ	27	特定の科学的事象に関する探求活動、または発展的な課題研究	◆	◆	◆	◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・実験の技能
知：知識・理解

4 評価方法

①定期テスト②提出物および小テスト③授業態度④出席状況をもとに判断する。

5 履修上の注意

自然科学について考え、興味・関心を持つように心がけて、学習に取り組んでください。希望する生徒には、日常生活や社会との係わりを考える中で理科検定合格や各種資格（危険物取扱者等）取得も達成目標の一つとします。

教科：保健体育

科目：体育（1年）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1学年	3単位（105時間）	必修科目	特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：なし			

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするため各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期	●集団行動・学校体操 ・体づくり運動 ●体力テスト ●バレーボール ●サッカー ●体育理論	36	集団行動・学校体操を理解し、覚える 体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う 運動・スポーツの文化的特徴	◆ ◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆ ◆
2 学期	●持久走 ●バドミントン ●柔道 ●ニュースポーツ	42	体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆
3 学期	●バスケットボール ●アルペンスキー	27	基本的技能の習得 基本的技能の習得	◆ ◆		◆ ◆	◆ ◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

4 評価方法

各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。

5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育

科目：体育（2年）

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：なし			

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするため各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期	●集団行動・体づくり運動 ●陸上競技 ●体力テスト ●サッカー ●バスケットボール ●バレーボール ●体育理論	36	集団行動を理解する 体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う 身だしなみ 運動・スポーツの学び方	◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆ ◆
2 学期	●持久走 ●バドミントン ●ダンス ●ニュースポーツ	42	体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆
3 学期	●バスケットボール ●アルペンスキー	27	基本的技能の習得 基本的技能の習得	◆ ◆	◆ ◆		◆ ◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

4 評価方法

各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。

5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育

科目：体育（3年）

履修学年 3学年	履修単位（時間） 3単位（105時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：なし			

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 期末	●集団行動・体づくり運動 ●体力テスト ●サッカー ●バスケットボール ●バレーボール ●体育理論	36	集団行動を理解する 体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う 豊かなスポーツライフの設計	◆ ◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆
2 学期 期末	●持久走 ●バレーボール ●バドミントン ●ニュースポーツ	42	体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆ ◆ ◆		◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆
3 学期	●バスケットボール	27	種目の特性を学ぶ	◆			◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

4 評価方法

各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。

5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育 科目：生涯スポーツ（3年選択）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3学年	3単位（105時間）	選択科目（G群）	特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：イラストでみる最新スポーツルール（大修館）			

1 学習目標

- ・自分の限界の能力の限界に挑戦し、精一杯、努力し続けられる態度と心の育成を目指す。
- ・生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成に努め、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ・選択体育において、生徒選択を拡大しながら、生涯体育・スポーツの実施に向けた最終段階として、合理的・計画的に運動を実施できることを目指す。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	・自分やグループの能力と運動の特性に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習や試合の仕方の工夫をしている。	・自分やグループの能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かしたゲームができるようにする。 ・自分の体力に応じて、体力を合理的に高めるための運動ができる。	・スポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 ・各種目のルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。

3 学習計画

学 期	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学 期 期 末	●トレーニング理論 ●ウエイト・トレーニング ●ゴルフ	36	体力の向上 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆
2 学 期 期 末	●ウエイト・トレーニング ●ゴルフ ●卓球 ●ニュースポーツ	42	身だしなみ 基礎的なトレーニング理論を理解する 基本的技能の習得 種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆	◆ ◆ ◆ ◆
3 学 期 期 末	●バスケットボール ●ニュースポーツ	27	種目の特性を学ぶ ルールを理解し、公正な判断を行う	◆ ◆	◆ ◆	◆ ◆	◆ ◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。

5 履修上の注意

より専門的な知識や技能を身につけるために、常に全力で授業に臨むこと。

教科：保健体育 科目：保健（１年）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1学年	1単位（35時間）	必修科目	特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：現代高等保健体育ノート（大修館）			

1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点		
				関	思	知
1 学期	第 1 章 現代社会と健康	12	1 私たちの健康のすがた	◆		◆
			2 健康のとらえ方	◆	◆	
			3 健康と意志決定・行動選択	◆	◆	
			4 健康に関する環境づくり	◆		◆
			5 生活習慣病とその予防	◆	◆	
			6 食事と健康	◆		◆
			7 運動と健康	◆		◆
			8 休養・睡眠と健康	◆		
			9 喫煙と健康	◆		
			10 飲酒と健康	◆		◆
			11 薬物乱用と健康	◆		
2 学期	第 1 章 現代社会と健康	14	12 現代の感染症	◆		◆
			13 感染症の予防	◆		◆
			14 性感染症・エイズとその予防	◆		◆
			15 欲求と適応機制	◆	◆	◆
			16 心身の相関とストレス	◆	◆	◆
			17 ストレスへの対処	◆	◆	◆
			18 心と健康自己実現	◆		◆
			19 交通事故の現状と要因	◆		◆
			20 交通社会における運転者の資質と責任	◆		◆
3 学期	第 1 章 現代社会と健康	9	21 安全な交通社会づくり	◆		◆
			22 応急手当の意義とその基本	◆		◆
			23 心肺蘇生法	◆	◆	◆
			24 日常的な応急処置	◆	◆	◆

計35時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「課題・レポート」を中心に授業態度を加味し、総合的に判断します。

5 履修上の注意

正しく授業を受講し、課題は期限内に提出すること。

教科：保健体育 科目：保健（2年）

履修学年 2学年	履修単位（時間） 1単位（35時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：現代高等保健体育（大修館）			
副教材等：なし			

1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点		
				関	思	知
1 学期	第 2 章 生涯を通じる健康	12	1 思春期における心身の発達と健康	◆		◆
			2 性意識と性行動の選択	◆	◆	◆
			3 健康な結婚生活	◆		◆
			4 妊娠・出産と健康	◆		◆
			5 家族計画と人工妊娠中絶 ・性について話し合ってみよう	◆	◆	◆
2 学期	第 2 章 生涯を通じる健康	14	6 加齢にともなう心身の変化と健康	◆		◆
			7 高齢者のための社会的とりくみ	◆		◆
			8 わが国の保健・医療制度	◆		◆
	第 3 章 社会生活と健康		9 地域の保健・医療機関の活用	◆		◆
			1 大気汚染と健康	◆	◆	◆
			2 水質汚濁と健康	◆	◆	◆
			3 土壌汚染と健康	◆	◆	◆
3 学期	第 3 章 社会生活と健康	9	4 広がる環境汚染	◆		◆
			5 環境と健康の対策	◆		◆
			6 環境衛生にかかわる活動	◆	◆	◆
			7 食品保健にかかわる活動	◆	◆	◆
			8 健康の保持増進のための環境と食保健品の保健	◆	◆	◆
			9 職業病や労働災害と健康	◆	◆	◆
			10 働く人の健康の保持増進	◆		◆

計35時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「課題・レポート」を中心に授業態度を加味し、総合的に判断します。

5 履修上の注意

正しく授業を受講し、課題は期限内に提出すること。

教科：芸術 科目：美術Ⅰ

履修学年 1 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 選択必修科目（A 群）	履修条件等 特になし
使用教科書： 高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）			
副教材等： なし			

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 評価の観点

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	発	技	鑑
1 学期 中間	オリエンテーション 鉛筆デッサン 風景画（アクリルガッシュ）	4	授業の流れ・評価の方法 デッサンの技法を学ぶ	◆			
		6	作品鑑賞 アクリルガッシュの技法を身につける 風景画制作			◆	◆
						◆	
1 学期 期末	文化祭 展示物準備	14	絵画の基本技法 絵画の鑑賞 画材に合ったテーマの決め方、表現方法 色彩構成、画面構成の方法 展示物制作				◆
						◆	◆
						◆	
					◆		
2 学期 中間	立体（粘土） 絵本づくり	8	クレアートの基本技法 どのように粘土で表現するか	◆			◆
		8	様々な絵本についての知識 絵本づくりの基本技能 絵本作品制作			◆	◆
					◆		
2 学期 期末	鑑賞	6	作品の発表・評価		◆		◆
		6	鑑賞の視点 制作者の意図	◆			◆
							◆
3 学期	絵画（トリックアート）	18	トリックアートの持つ意味への理解 立体をデザインする 表現形式、色彩、材料の生かし方などの技能 作品制作		◆		◆
						◆	
						◆	

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：美術への関心・意欲・態度 発：発想や構想の能力
技：創造的な技能 鑑：鑑賞の能力

4 評価方法

授業内での制作物または鑑賞を行った際のワークシートやレポート
2 評価の観点を踏まえ、作品提出、完成の状況・学習活動への参加状況・授業観察・資料の活用、応用状況・制作手順や用具の使い方・鑑賞時（関心、集中度など）の状況・レポートの内容などから総合的に評価を行う。

5 履修上の注意

授業を通して想像力や創造力を養い、美術に親しみ、ゆとりある豊かな暮らしへと活かして欲しい。また、自分の創りたい物を見つけ、自ら制作設計を立て、制作物を最後まで完成させるという活動を他のことにも活かして欲しい。

教科：芸術 科目：書道Ⅰ

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位（70 時間）	選択必修科目（A 群）	特になし
使用教科書：書道Ⅰ（東京書籍）			
副教材等：なし			

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 評価の観点

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	構	技	鑑
1 学期 中間	漢字の書（楷書）	10	半紙に楷書で臨書する			◆	
	漢字の書（行書）		競書大会への出品（日本武道館書写大会） 点画が連続して書く日常的な書体の修得			◆	
1 学期 期末	漢字仮名交じりの書	14	画仙紙（半切り）に詩歌などを素材とした書。 作品の相互鑑賞、校内文化祭	◆		◆	◆
2 学期 中間	仮名の書 連綿	16	縦、横、転折、結び等基本的な筆使いの修得 簡単な文章により連綿線を表現する			◆	
2 学期 期末	実用の書	12	年賀状を小筆で書く 贈答用語の表書きをする		◆	◆	◆
3 学期	変体仮名	18	古典の鑑賞に役立てるよう読解力を身につける 連綿や散らし書きによる美の表現力を高める		◆	◆	◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：書への関心・意欲・態度
 構：書表現の構想と工夫
 技：創造的な書表現の技能
 鑑：鑑賞の能力

4 評価方法

書への関心・意欲・態度、及び作品の完成度を総合的に判断し評価する。

5 履修上の注意

書写している文字の意味と解説

教科：外国語 科目：コミュニケーション英語Ⅰ（１年）

履修学年 1 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：WORLD TREK English CommunicationⅠ（桐原書店）			
副教材等：『新ユメタン0』アルク			

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	Lesson 1 A smile is the best greeting!	7	英語圏に於ける挨拶行動を言語外要素を含めて検討し、高校英語の入り口とする 言語材料：動詞の時制・比較	◆			◆
	Lesson 2 What is school to you?	8	開発途上国の子供たちの学習環境について具体例を通して学ぶ 言語材料：不定詞(名詞的・副詞的用法)等	◆			◆
1 学期 期末	Lesson 3 Soccer Uniform say a lot about countries	10	サッカー代表チームのユニフォームのデザインに託された各国の歴史や文化について読む 言語材料：助動詞／受け身	◆			◆
	Lesson 4 Q&A about Nature	11	アリはなぜ行列をつくるかなど、自然界の「なぜ？」を科学的に解説した文を読む 言語材料：第3文型の句や節の目的語について	◆			◆
2 学期 中間	Lesson 5 Challenge your limits !	12	病気で足を失った女性の積極的な生き方を通じて希望や夢の大切さを学ぶ 第4文型／分詞	◆			◆
	Lesson 6 The wonderful world of colors	12	色は文化や歴史によって様々な文化的な意味をもち我々の感覚にも大きな影響を与えている。 言語材料：関係代名詞	◆			◆
2 学期 期末	Lesson 7 Hokulea's adventure	9	古代太平洋を星を頼りに何千キロも旅した航海技術を習得を目指す日本人のチャレンジ精神 言語材料：現在完了進行形、形式主語等	◆			◆
	Lesson 8 The secrets of cup ramen	9	日本で誕生したカップラーメンの世界的普及や非常時食料としての役割について学ぶ 言語材料：関係副詞／疑問文で始まる第4文型	◆			◆
3 学期	Lesson 9 Rose's O'Neill The creator of the Kewpies	13	世界中で人気のキャラクター「キューピー」の誕生を巡る歴史を学ぶ 言語材料：分詞構文／第5文型	◆			◆
	Lesson 10 Potato stories The history of a vegetable	14	450年前に南米の一部で栽培されていたジャガイモが世界に普及していった歴史を学ぶ 言語材料：知覚動詞／第2文型と過去分詞	◆			◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：外国語表現の能力
理：外国語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「提出物」、「授業に対する意欲・態度」等により総合的に評価します。

5 履修上の注意

英語Ⅰでは、中学校で学んだ学習事項を整理しながら、より実践的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とします。予習を前提として授業を行いますので、最低限単語や熟語の意味を辞書で調べて授業に臨むとともに、予習→授業→復習のサイクルをしっかりと確立してください。

教科：外国語 科目：英語表現Ⅰ（１年）

履修学年 1 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 必修	履修条件等 特になし
使用教科書：ATLANTIS English ExpressionⅠ（チアーズ）			
副教材等：なし			

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語能力の理解	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けて入りとともに、言語の背景などにある文化などを理解している

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	Lesson 1	5	先生とクラスメイトの好きなものを見つける 文法事項：不定詞 vs 動名詞	◆	◆	◆	◆
	Lesson 2	5	クラスメイトの日常生活を知る 文法事項：頻度に関する副詞	◆	◆	◆	◆
1 学期 期末	Lesson 3	4	旅行の計画について話す 文法事項：going to を使った未来形	◆	◆	◆	◆
	Lesson 4	5	ある人の週の予定を確認する 4 つの方法、何かの誘いを断る 4 つの方法を学ぶ 文法事項：be+ing を使った未来形	◆	◆	◆	◆
	Lesson 5	5	たった今考えたこと、未確定なことを述べる 文法事項：will を使った未来形	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	Lesson 6	4	提案の仕方、提案の断り方を理解する 文法事項：提案の基本型	◆	◆	◆	◆
	Lesson 7	4	3 つのアドバイスパターンを理解する 文法事項：アドバイスの基本型	◆	◆	◆	◆
	Lesson 8	4	許可のパターンを学び、使うことができる 文法事項：許可の基本型	◆	◆	◆	◆
	Lesson 9	4	カタカナを使用せずに多くの国名を見つける 文法事項：was / were	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末	Lesson 10	5	役立つ過去形の質問パターンを強化する 文法事項：過去形 1	◆	◆	◆	◆
	Lesson 11	5	与えられた応答文から疑問文を作る 文法事項：過去形 2	◆	◆	◆	◆
	Merry Christmas	2	日本とアメリカにおけるクリスマスの相違点、類似点を学ぶ	◆	◆	◆	◆
3 学期	Lesson 12	4	さまざまな過去形の質問パターンを応用する 文法事項：過去形 3	◆	◆	◆	◆
	Lesson 13	4	推論的に"used to"の使い方と文法を理解する 文法事項：used to を使った過去形	◆	◆	◆	◆
	Lesson 14	6	自然な文法で過去進行形を使う練習をする 文法事項：過去進行形	◆	◆	◆	◆
	Lesson 15	4	"ed"と"ing"の違いを理解し、自然な文脈で使う 文法事項：形容詞"ed"と"ing"の用法	◆	◆	◆	◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：外国語表現の能力
理：外国語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

4 評価方法

定期テスト、単元別テスト、授業態度、提出物等で総合的に評価する。

5 履修上の注意

各単元のエクササイズは英和・和英辞典を使用して必ず予習しておくこと。

教科：外国語 科目：コミュニケーション英語Ⅱ（2年）

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：WORLD TREK EnglishcommunicationⅡ（東京書籍）			
副教材等：『新ユメタン0』アルク			

1 学習目標

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	Lesson 1 Young People, Be Ambitious!	7	川島永嗣さんの言葉を読んで彼の信条や夢にふれて、人生を豊かにするためのヒントとする 言語材料：形式目的語 it / S+V+O+C	◆			◆
	Lesson 2 Dear Juliet	8	「ジュリエットクラブ」のボランティア活動を通して、悩みを打ち明ける人々の心理を読む 言語材料：現在完了進行形 / 不定詞の完了形等	◆			◆
1 学期 期末	Lesson 3 Battle of the Pets: Dogs vs. Cats	10	イヌとネコをさまざまな観点で比較した文を読み、各動物の共通点や相違点を理解する 言語材料：It is ~ whether / 付帯状況 with 等	◆			◆
	Lesson 4 What if ... ?	11	願望についての可能性を考えながら、自然界の法則や因果関係について学ぶ 言語材料：wish+仮定法 / 仮定法過去完了 等	◆			◆
2 学期 中間	Lesson 5 Innovative Products	12	画期的な製品が一体どのようにして生まれたのか、3つの具体的な製品を通して知る 言語材料：関係副詞 why / 関係代名詞+前置詞	◆			◆
	Lesson 6 The Power of Japanese Pop Culture	12	日本のポップカルチャーが持つ外交力を生かして自分たちにできることは何かを考える 言語材料：強調構文 / 挿入 / seem+to 不定詞	◆			◆
2 学期 期末	Lesson 7 The Origins of Halloween	9	ハロウィーンにまつわるシンボルを通じて、この風習の起源について探る 言語材料：the+形容詞[分詞] / 関係副詞 when	◆			◆
	Lesson 8 Do Robots Have a Heart?	9	ロボット研究社古田貴之さんとの作るロボットまた日本の最先端科学技術について知る 言語材料：関係代名詞・関係副詞の非制限用法	◆			◆
3 学期	Lesson 9 The Boy Who Harnessed the Wind	13	アフリカの少年が自国のエネルギー問題に取り組む姿を読み、「学ぶ」ことについて考える 言語材料：動詞の強調 / 倒置 / 省略	◆			◆
	Lesson 10 A Bridge of Dreams	14	困難に遭いながら世界最大の吊り橋をかけアメリカの人々に勇気を与えた家族の物語を読む 言語材料：比較級を使った倍数の表現 等	◆			◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：外国語表現の能力
理：外国語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「提出物」、「授業に対する意欲・態度」等により総合的に評価します。

5 履修上の注意

コミュニケーション英語Ⅱでは、コミュニケーション英語Ⅰの学習の基礎の上に立って、更に進んだ内容を総合的に学習します。予習を前提として授業を行いますので、最低限単語や熟語の意味を辞書で調べて授業に臨むとともに、予習→授業→復習のサイクルをしっかりと確立してください。

教科：外国語 科目：コミュニケーション英語Ⅱ（３年）

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 2 単位（70 時間）	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書：World TREKⅡ（桐原書店）			
副教材等：配付プリント			

1 学習目標

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	実際の運用に資する文法理解に加えて英語の持つ論理や修辞を具体的に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	Reading I The Velveteen Rabbit (World Trek) プリント	8	愛によってぬいぐるみが 生命を持つ寓話を通じて「Real」の語義を深める 言語材料：関係副詞の非制限用法／同格 that 等	◆		◆	
		2	時制／動詞・動詞句／助動詞		◆		◆
1 学期 期末	Reading II The Baton of Ahmed's Life (World Trek) Lesson17 Should We abolish the death penalty (mainstream)	7	戦争と臓器移植という複数の重要テーマを、パレスチナ紛争の実話を通して考える 言語材料：形式目的語 it／否定表現の副詞 等	◆		◆	
		7	死刑制度の是非 言語材料：進行形の受け身／付帯状況 with 等	◆		◆	
2 学期 中間	Lesson18 Haiku (mainstream) Lesson 19 Let's write a Fable (mainstream)	8	俳句の普遍性と芸術性を英語学習の観点から考える 言語材料：比較の程度／完了不定詞 等	◆		◆	
		8	ことわざによる日英の文対比 言語材料：仮定法過去完了／完了の分詞構文等	◆		◆	
2 学期 期末	Lesson 20 In Ten years (mainstream) プリント	9	10年後の自分を考える（英語のスピーチ原稿作成） 言語材料：関係代名詞 whose／譲歩 等	◆		◆	
		3	副詞・副詞句／比較／態／一致・話法		◆		◆
3 学期	Speaking & Listening Project (mainstream)) Writing Project (mainstream)	9	聞き取りとプレゼンテーションの演習	◆		◆	
		9	パラグラフ構成を考えての長文英作を課す	◆		◆	

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「提出物」、「授業に対する意欲・態度」等により総合的に評価します。

5 履修上の注意

この授業では、2年次までの学習の基礎の上に立って、更に進んだ内容を総合的に学習し、大学入試や就職試験に対応できる学力をつけることを目標とします。予習を前提として授業を行いますので、最低限単語や熟語の意味を辞書で調べて授業に臨むとともに、予習→授業→復習のサイクルをしっかりと確立してください。

教科：外国語 科目：教養英語（3年選択）

履修学年 3学年	履修単位（時間） 3単位（105時間）	履修形態 選択科目（E群）	履修条件等 特になし
使用教科書：MY WAY English Communication III（三省堂）			
副教材等：『新ユメタン0』アルク			

1 学習目標

英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英文の主題を正確に把握して論理の流れをつかみ、修辞と文法を理解して内容を的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	Reading Skill 1~3	15	意味のまとまりで区切って理解する 代名詞が指す内容・つながりの語句に注意する パラグラフの主題文を見つける パラグラフの構成「時間的順序」「列挙・例示」 「比較・対照」を理解する	◆	◆	◆	◆
	Reading Skill 4~6	10	パラグラフの構成「原因・結果」を理解する 論の展開とスキミングについて理解する 文章のまとめ方について理解する	◆	◆	◆	◆
2 学期 中間	Lesson 1 Narrow Boats in Britain	11	イギリスの運河で見られる「narrow boats」について学び、運河や産業史の理解を深め r y 代名詞／ダッシュ・コロンのセミコロン等	◆	◆	◆	◆
	Reading Skill 7~9	8	多くの discourse marker を「つながり語」として 具体的な教科書本文をもとに捉える 分詞構文（完了形）／倒置／語句の言い換え	◆	◆	◆	◆
	Lesson 2 A Miraculous Pianist	8	脳卒中により右手が使えなくなったピアニスト の不屈の魂を学ぶ 無生物主語／文修飾副詞／比喩表現	◆	◆	◆	◆
	Reading Skill 10~11	8	スキミングを文の構成から学ぶ 省略／関係副詞等	◆	◆	◆	◆
2 学期 期末	Lesson 3 iPS Cells	6	人工多能性幹細胞のしくみと生命倫理の関係を 捉える 仮定法（過去完了）／同格等	◆	◆	◆	◆
	Lesson 4 Roman Baths	6	ローマの公衆浴場の文化について理解する 比較表現／共通構文／受け身（使役・知覚動詞）	◆	◆	◆	◆
	Lesson 5 The Leap Calendar	6	「うるう週暦」と整数比による暦と時間概念に ついて考え、文化の相対性と伝承について学ぶ 強調構文／不定詞（結果）等	◆	◆	◆	◆
3 学期	Lesson 6 Digital & Printed Books	9	電子書籍と紙の書籍の対比 倍数表現／不定代名詞／関係代名詞（所有格）	◆	◆	◆	◆
	Lesson 7 Buckwheat in the World	9	世界各国のソバ料理法 助動詞の過去形／if節のない仮定法等	◆	◆	◆	◆
	Lesson 8 A Message from Small Creature	9	ミツバチとスズメを通して環境問題を学ぶ 抽出用法／関係代名詞・関係副詞（非制限用法）	◆	◆	◆	◆

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「提出物」、「授業に対する意欲・態度」等により総合的に評価します。

5 履修上の注意

教養英語の授業では、いわゆる英文訳読も必要に応じて行ないますが、読んで理解した内容を発表する活動も数多く行ないます。間違いを恐れずに、積極的に授業に参加してください。また、英文の内容をより速く理解できるように、基礎となる単語力・文法力を身につけ、できるだけたくさん英文を読むようにしましょう。

教科：外国語 科目：英語表現Ⅱ（３年選択）

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 4 単位（140 時間）	履修形態 選択科目（F 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：SCREENPLAY English Expression II（スクリーンプレイ）			
副教材等：なし			

1 学習目標

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行いコミュニケーションを図ろうとする。	重要な文法事項を習得したうえで、英語で話したり書いたりして、情報や自分の意見を適切に表現している。	例文の英語を聞いたり読んだりして、文法的分析を正確に行った上で、情報や考えを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	UNIT 1~3	20	George, This is Stuart / I am Sam (1) DVD と Script 言語材料：基本 5 文型／重文、複文／現在 [過去]進行形／過去形／現在[過去]完了形	◆	◆		
1 学期 期末	UNIT 4~6	28	I am Sam (2) / Real Steel DVD と Script 言語材料：動名詞／to 不定詞／原形不定詞／ 助動詞／能動態、受動態／分詞の後置修飾	◆	◆		
2 学期 中間	UNIT 7~9	32	Legally Blonde / Super Size Me (1) DVD と Script 言語材料：関係代名詞／関係副詞／同等比較、 倍数表現／比較級、最上級／仮定法過去／ 分詞構文／予定・意図の表現／感謝の表現	◆	◆		
2 学期 期末	UNIT10 ~12	24	Super Size Me (2) / Mona Lisa Smile DVD と Script 言語材料：謝罪の表現／誘い・提案の表現／ お祝いと励ましの表現／依頼の表現／ 許可・禁止の表現／賛成・反対の表現／ 譲歩・逆接の表現／助言・示唆の表現	◆	◆		
3 学期	UNIT13, 14	36	Freedom Writers DVD と Script 言語材料：位置の説明の表現／例示の表現／ 理由の表現／比較・対照の表現／ 原因・結果の表現	◆	◆		

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

定期テスト、単元別テスト、授業態度、提出物等で総合的に評価する。

5 履修上の注意

各単元のエクササイズは英和・和英辞典を使用して必ず予習しておくこと。

教科：外国語 科目：探究英語A（2年選択）

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 3 単位（105 時間）	履修形態 選択科目（B 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：MY WAY English Expression II（三省堂） 1 WORLD TREK English Communication I（桐原書店）			
副教材等：『新ユメタン0』アルク			

学習目標

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で表現する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、言語や文化に対する理解を深める。

2 評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	既習の表現をもれなく理解して運用能力を高めるとともに、事実や意見を考察して論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	英語表現 I の復習 Lesson 1～4	10	時制／助動詞と受動態 成長した友人／クラブ活動／わが家のルール／旅行	◆	◆	◆	◆
	Review Exercises 1 Lesson 1, 2	5	英語表現 I の復習, Lesson 1, 2 の復習 不定詞／動名詞／S+V(+O)+O[=疑問詞+to~] 等		◆	◆	◆
	Lesson 5～9	16	日本の伝統芸能／私の好きなアニメ、音楽／私たちの町の伝統産業／絵画を楽しむ／茶道と日本の伝統文化	◆	◆		◆
1 学期 期末	Review Exercises 2 Project Work A 英語表現 I の復習		英語表現 I の復習, Lesson 3～5 の復習 プレゼンテーションと質疑応答の練習 不定詞、動名詞	◆	◆	◆	◆
	Lesson 3, 4	5	分詞と分詞構文、知覚動詞、使役動詞 現在完了／比較／S+V(+O)+O[=that 節] 等		◆	◆	
	Lesson 10～14	16	活躍するスポーツ選手たち／日本の世界遺産をめぐる／アジアの食文化／自分の習慣を見直してみる／語学学習の新しい方法は？	◆	◆		◆
2 学期 中間	Review Exercises 3, 4 Project Work B 英語表現 I の復習		英語表現 I の復習, Lesson 6～12 の復習 プレゼンテーションと質疑応答の練習 比較と関係詞／仮定法と否定、語法など	◆	◆	◆	◆
	Lesson 5, 6	8	関係代名詞／分詞／S+V(+O)+O[=疑問詞節] 等		◆	◆	
	Lesson 15～18	13	エネルギー問題を考えてみよう／余暇の過ごし方／レイチェル・カーソン／メディアもさまざま	◆	◆		◆
2 学期 期末	Review Exercises 5, 6 Project Work C 英語表現 I の復習		英語表現 I の復習, Lesson 13～18 の復習 プレゼンテーションと質疑応答の練習 前置詞、接続詞、文修飾副詞	◆	◆	◆	◆
	Lesson 7, 8	5	分詞構文／S+V+O+C[=現在分詞, 動詞原形] 等		◆	◆	
	Lesson 19～21	18	科学と技術について／職業について考える／生き方について考えてみよう	◆	◆		◆
3 学期	Review Exercises 7 Project Work D Lesson 9, 10		Lesson 19～21 の復習 プレゼンテーションと質疑応答の練習	◆	◆	◆	◆
		9	過去完了／関係副詞／仮定法過去 等		◆	◆	

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：英語表現の能力
理：英語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

4 評価方法

定期テスト、単元別テスト、授業態度、提出物等で総合的に評価する。

5 履修上の注意

各単元のエクササイズは英和・和英辞典を使用して必ず予習しておくこと。

教科：外国語

科目：探究英語B（3年選択）

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
3 学年	2 単位（70 時間）	選択科目（E 群）	特になし
使用教科書：SELECT English Expression（三省堂）			
副教材等：随時、文法プリントを使用して演習を行う			

1 学習目標

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で表現する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、言語や文化に対する理解を深める。

2 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行いコミュニケーションを図ろうとする。	重要な文法事項を習得して英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に表現している。	例文の英語を聞いたり読んだりして、文法的分析を正確にしたうえで、情報や考えを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	表	理	知
1 学期 中間	Let's Start 1～3	6	基本文型 1～5 / 文の種類 基本時制と進行形 / 完了形 / 未来を表す表現 / 助動詞 / 受け身 / 動詞の修飾		◆		◆
	Lesson 1		自己紹介・家族・趣味 / 学校生活	◆	◆		
	Lesson 2	4	宇宙で食事 / 接続詞 / 名詞+S+V(+～) / 形式主語 / S+seem(s) to do / S+V+O [if/whether 節]		◆	◆	
1 学期 期末	Lesson 3	9	スポーツと国際交流 / 動詞の修飾 / 名詞の修飾 / 名詞節		◆		◆
	Lesson 4		文の組み立てと不定詞 エーゲ海の島々	◆	◆		
	Lesson 5	5	未来の表現（2） アイドルについて / 仮定法過去 / 過去完了進行形 / 分詞構文 / 関係代名詞の非制限用法 等		◆	◆	
2 学期 中間	Lesson 6	10	日本の祭り / 主語・主題 / 否定 / 数量 / 時間・距離 比較 / 意図・予定		◆		◆
	Daily Conversation		買い物 / 衣類・ファッション	◆	◆		◆
	Lesson 7	6	未来のエネルギー / 助動詞 / 未来進行形 / 形式目的語 it [=to ～] / as if + 仮定法過去 等		◆	◆	
2 学期 期末	Lesson 8	8	世界平和 / 推量・可能性 / 依頼・要求 / 勧誘・提案 / 使役・受け身 / 感覚・知覚 / 感情・気持ち		◆	◆	◆
	Speaking Station		史上最大の発明（short speech 作成）	◆	◆		
	Lesson 9	4	沖縄美ら海水族館 / 不定詞の3用法		◆	◆	
3 学期	Lesson 10	11	マザーテレサ / 原因・理由 / 目的・結果 / 条件・仮定 / 譲歩 / 伝達		◆	◆	◆
	Speaking Station		同一絵画の異動発見（short speech 作成）	◆	◆		
	Lesson 11	7	はやぶさの帰還 / 仮定法過去完了 / 完了形の分詞構文 / 譲歩 / 前置詞 + 関係代名詞 / 関係代名詞 whose 等		◆	◆	

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：英語表現の能力
理：英語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

4 評価方法

定期テスト、単元別テスト、授業態度、提出物等で総合的に評価する。

5 履修上の注意

各単元のエクササイズは英和・和英辞典を使用して必ず予習しておくこと。

教科：家庭

科目：家庭基礎

履修学年	履修単位（時間）	履修形態	履修条件等
1 学年	2 単位（70 時間）	必修科目	特になし
使用教科書：家庭基礎 パートナリーシップでつくる未来（実教出版）			
副教材等：なし			

1 学習目標

人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的な知識を身に付けている。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族	2	自分を見つめる 生きるということ、男女が		◆		
		2	ともににう生活をめざして				◆
		2	青年期を生きる、青年期の課題、生活設計	◆			
		2	パートナーと出会う 変わる結婚、暮らし		◆		
1 学期 期末	2章 子どもとかかわる 3章 高齢者とかかわる 4章 社会とかかわる	2	家族と法律 生活をささえる仕事と生活時間				◆
		8	生命の誕生 みんなで育てる		◆		
		2	子供の生活 すこやかに育つ環境 権利				◆
		2	人の発達と保育（からだ、心）				◆
夏休み	ホームプロジェクト	2	高齢者の現状 福祉システム	◆			
		2	社会保障制度のしくみ	◆			
			自分の身のまわりの生活課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行いレポートとして提出する			◆	
2 学期 中間	第2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる	16	栄養と食品のかかわり				◆
			食品の栄養素とからだの成分				◆
			五大栄養素とからだの成分				◆
			栄養所要量と食品摂取量のめやす				◆
2 学期 期末	2章 衣生活をつくる		食品の選び方と安全	◆			
		1	食中毒、食品添加物の理解				◆
		9	調理実習3回、材料計算、実習カード作成			◆	
		2	衣服の機能、素材・性能				◆
3 学期	3章 住生活をつくる		衣服の手入れ、洗剤のはたらき				◆
			衣生活と環境、資源の理解				◆
		5	人と住まいのかかわり	◆			
			健康的で安全な住まい				◆
3 学期	3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える 2章 経済的に自立する	10	消費者の権利と責任、購入のあり方		◆		
			資源、環境を考える		◆		
		3	家庭経済を認識させる				◆

計70時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：技能 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」「調理実習カード」「課題・レポート」を中心に「平常点」を加味し、上記シラバスに記載した観点により総合的に評価します。
「平常点」では授業中の積極的な発言や質問を重視します。

5 履修上の注意

常に自立したときの自分を当てはめさせ、基本的な知識と技術を積極的に修得しようとする姿勢が見せてほしいと思います。

教科：家庭

科目：服飾文化

履修学年 3 学年	履修単位（時間） 4 単位（140 時間）	履修形態 選択科目（E 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：服飾文化（実教出版）			
副教材等：なし			

1 学習目標

被服の基本型と文化、着装などに関する知識と技術を習得させ、服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生活産業を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	生活産業に関する基礎的・基本的な技術知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	1 章「被服文化」を学ぶ 目的と意義	5	被服の役割 日本の被服の変遷		◆		◆
	2 章 被服文化の変遷と 背景	9	女物浴衣製作 和服の種類と名称			◆	◆
	4 章着ることと装うこと	6	地直し、裁断			◆	
1 学期 期末	女物浴衣製作	5	身ごろのしるしつけ、袖づくり			◆	
		6	背縫い、肩当て居敷当て			◆	
		7	脇縫い、脇の縫い代仕末			◆	
		8	衿のしるしつけ、衿下くけ、衿付け、衿縫代仕末			◆	
		2	裾くけ			◆	
2 学期 中間	女物浴衣製作 浴衣を試着する きんちゃく なべつかみ 3 章個性とファッション	8	衿のしるしつけ、衿つけ、掛衿付			◆	
		6	袖付、仕上げ、製作カード提出、着装する			◆	
		6	残り布を利用した小物作り			◆	
		6	残り布を利用した小物作り			◆	
		6	個性の表現と服飾、ファッション			◆	
2 学期 期末	5 章服飾文化の伝承と 創造 伝統工芸	4	わが国の通過儀礼と服飾				◆
		4	わが国年中行事と服飾	◆			
		2	わが国の伝統工芸と服飾				
		14	絞り染め、ふろしきかのれん作成 自分で図案を考え、絞り方を決める	◆	◆		
3 学期	伝統工芸 4 章着ること装うこと	10	染める、仕上げ			◆	
		26	洋服の種類と着装				◆
			和装の種類と着装				◆
			和装の手入れと保管				◆

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

4 評価方法

製作作品、制作カード、レポートを中心に、平常点を加味し上記のシラバスに記載した観点より総合的に評価します。

5 履修上の注意

2学期の文化祭に展示するため、4章を途中で活用し、残った分野を後にまわしました。自分で制作したものを着ることで感動していたようです。

教科：家庭 科目：フードデザイン

履修学年 2 学年	履修単位（時間） 4 単位（140 時間）	履修形態 選択科目（C 群）	履修条件等 特になし
使用教科書：フードデザイン（実教出版）			
副教材等：フードデザイン用調理カード			

1 学習目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生活産業を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	生活産業に関する基礎的・基本的な技術知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	思	技	知
1 学期 中間	1 章 食事の意義と役割 2 章栄養素の働きと食事計画 6 章フードデザイン	3	食事の意義と役割				◆
			食生活の現状とこれからの食生活		◆		
		6	からだのしくみと食べ物				◆
			栄養素の役割、材料計算、調理カードの書き方				◆
1 学期 期末	2 章 栄養素の働きと食事計画 6 章フードデザイン	11	調理実習 材料計算、調理カードの作成			◆	
			栄養素の種類と働き				◆
		13	消化と吸収				◆
			栄養所要量と食事計画		◆		
2 学期 中間	3 章 食品の特徴 6 章フードデザイン	8	ライフステージと栄養計画	◆			
		7	調理実習、材料計算、調理カード作成			◆	
		19	食品の特徴と性質				◆
			調味料と香辛料				◆
2 学期 期末	4 章 調理の基本 6 章フードデザイン		食品の生産と流通	◆			
			食品の加工		◆		
		13	調理実習、材料計算、調理カード作成			◆	
			調理の目的		◆		
3 学期	5 章 料理様式とテーブルコーディネート 6 章フードデザイン		食べ物のおいしさ				◆
			調理器具				◆
			調理操作				◆
		9	調理実習、材料計算、調理カード作成			◆	
3 学期	5 章 料理様式とテーブルコーディネート 6 章フードデザイン	18	料理様式と献立		◆		
			日本料理、西洋料理、中国料理				◆
			テーブルコーディネートの意義				◆
			テーブルコーディネートの要素				◆
3 学期	6 章フードデザイン	18	調理実習、材料計算、調理カード作成			◆	

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

4 評価方法

「定期考査」、「課題・レポート」、「実習態度」を中心に「平常点」を加味し、シラバスに記載した観点により、総合的に評価します。

5 履修上の注意

旬の野菜を利用し、調理実習は一年間を通して定期的に行います。農家の生徒が多いので、自家野菜を持参させ、活用することができました。回数を重ねるごとに、手順、手さばきが上達し、驚きと感動を感じます。

教科：情報 科目：社会と情報

履修学年 2 学年	履修単位 (時間) 2 単位 (70 時間)	履修形態 必修科目	履修条件等 特になし
使用教科書： 高等学校 社会と情報 (数研出版)			
副教材等： なし			

1 学習目標

情報の特徴と情報化が及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

2 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、情報及び情報技術を活用し、情報社会の発展に主体的に寄与しようとする。	情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響及び身のまわりの問題を解決するために情報及び情報技術を活用することについて、科学的な考え方を生かし、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための技能を身に付け、効果的に活用している。	情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための知識を身に付け、情報社会を支える情報と情報技術の役割や影響を理解している。

3 学習計画

学 期	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
				関	技	思	知
1 学期 中間	序編 情報とメディア	2	第Ⅰ章 情報通信技術の発達	◆			◆
		2	第Ⅱ章 情報の特徴				◆
		2	第Ⅲ章 インターネットでの情報検索	◆			◆
		2	インターネットでの情報検索演習	◆	◆	◆	
		2	第Ⅳ章 メディアとは	◆			◆
1 学期 期末	第1編 情報社会と情報モラル	2	第1章 情報社会の問題点	◆			◆
		2	第2章 情報セキュリティの確保				◆
		2	第3章 情報社会における法と個人の責任			◆	◆
		8	プレゼンテーション演習	◆	◆	◆	
2 学期 中間	第2編 デジタル情報と情報の活用	3	第1章 アナログとデジタル				◆
		2	第2章 コンピュータの仕組み				◆
		3	第3章 情報のデジタル表現				◆
		8	文章入力演習	◆	◆	◆	
2 学期 期末	第3編 情報通信ネットワーク	3	第4章 情報の表現と伝達	◆			◆
		1	第1章 コミュニケーション手段の発達			◆	
		1	第2章 インターネットの仕組み				◆
		2	第3章 インターネットの活用			◆	◆
		5	文書作成演習	◆	◆	◆	
3 学期	第4編 望ましい情報社会の構築	3	第1章 情報システムと人間			◆	◆
		3	第2章 問題解決	◆		◆	
		12	表計算ソフト演習	◆	◆	◆	

計70時間 (50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

4 評価方法

①定期考査、②提出物、③発表、④授業に対する意欲態度、⑤出席状況をもとに評価する。

5 履修上の注意

「情報」という教科は、単にコンピュータについて勉強する教科ではありません。表現やコミュニケーションに情報機器を利用したり、自ら課題を見つけ、解決していく能力を身につけること、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解するとともに、情報を主体的に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を身につけることを目標とします。